

意思アルコト明瞭ナルヲ以テ英佛ノ右聲明ハ主トシテ獨逸ニ對シ爲サレタルモノト見ラルヘキ處從來「ロカル」ヲ主張シ來リシ關係ヨリ其ノ間何等意味アルモノト注意シ居タルカ

(二)⁽²⁾數日前得タル極祕情報ナリトテ二十一日東方部長カ本使ニ内話セル所ニ依レハ米國大統領ハ國內景氣恢復ノ現狀ハ歐洲政局ノ安定ヲ前提條件トスル理由ヨリ約二週間前英佛政府ニ對シ何等カノ方法ニ依リ歐洲政局ノ安定ヲ得ラルルニ於テハ米國ハ歐洲ニ對シ經濟財政援助ヲ與フヘキ意嚮ナル旨ヲ通知シタル趣ニテ英佛兩國モ亦同様ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ米國ノ援助ニ依ルコトナリ「エデン」外相並ニ「ブルム」首相ノ聲明トナリタルモノニシテ伊國ハ大イニ乘氣ナレハ英佛ハ聲明ニテ不充分ナルニ於テハ其ノ他ノ措置ヲ講スルコトナルヘシト想像シ居ル次第ナリ云々

(三)右情報ニシテ正確ナリトセハ英佛兩國ハ西國事變ノ「コンブリケーション」ハ別トスルモ尙新「ロカル」成立ノ見込モ立タサル現狀ニ於テハ平和維持策ニ付相當苦心シ居ル際米國ヨリ經濟財政方面ヨリスル歐洲政局安定ニ關シ協力提議アリタルニカヲ得其ノ方向ニ努力ヲ初メタルモノト見ルヘク十九日下院ニ於ケル「エデン」外相演說ノ最後ニ右政策ニ關シ相當ノ希望ヲ有スル旨ヲ述ヘ居レル如キ其ノ表徵ナリ且昨今佛國政治家並ニ新聞紙カ米國「デモクラシー」ノ協力ヲ云々シ居ルモ亦此ノ邊ノ意味ヲ有スルヤトモ解セラル

右ノ如ク獨逸政府ノ出方如何ニ依リテハ歐洲政局ハ或ル同轉ノ途ニ向フヤモ知レサル形勢ヲ呈シ來レルコトハ種々ノ點ニ見テ注意ヲ要スヘシ

英、佛、獨、伊、露ヘ轉報セリ

2 伊エ紛争

78

昭和11年1月7日

在エチオピア鈴木(九万)臨時代理公使より
広田外務大臣宛

公使館開設のためエチオピア到着後における

同国外相への表敬訪問について

公機密第八號

(2月17日接受)

昭和拾一年一月七日

在「エチオピア」國

臨時代理公使 鈴木 九萬(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

在「エ」國公使館開設ニ關スル件

(一)小官客年十一月二十五日在當地帝國公使館開設ノ爲至急出張ヲ命セラルルヤ當國ニ於テハ開館ニ必要ナル物品ノ入手困難ナルニ顧リミ一切之ヲ巴里又ハ馬耳塞ニテ購入(但シ至急出張ノ爲不取敢事務所用品ノミヲ購入シ官舎備品等ハ後廻シトセリ)十二月十二日巴里出發同十三日馬耳塞ニテ敷内書記生ト落合ヒ同日佛國郵船M.M.會社「マレシヤル・ジヨツフル」號ニ乗船シ十八日「ポー

ト・サイド」ニ於テ尾戸書記生ト合シ二十三日「ダブチ」ニ到着セリ

(二)「ダブチ」ニ於テハ佛領「ソマリ」總督 Annet 氏ヲ往訪挨拶セル處小官出發前在佛佐藤大使ヨリ小官等一行ノ同領通過ニ際シ便宜供與方佛國政府ニ對シ依頼セラレタル結果同政府ヨリ既ニ通報アリシ由ニテ同總督ハ小官等一行ヲ午餐ニ招待シ又税関其他ノ關係官憲ヨリモ頗ル町重ナル取扱ヲ受ケタリ尚同地ニ於テハ將來種々ノ交渉ヲ生スヘシト認メラルル Chemin de fer franco-éthiopien (「ダブチ」「アデイス・アベバ」間鉄道會社) Compagnie de l'Afrique Orientale(日本郵船ノ代理店ノ由ニテ佛領「ソマリ」ノ貨物通過、「ダブチ」「アデイス・アベバ」間ノ運輸事業等ヲ行フ) Société des Salines de Djibouti(三十一年前資本金三千萬法ヲ以テ設立ヲ見四百五十「エクター」ノ敷地ヲ有シ製塩額年額七萬噸ニ上リ其ノ中五萬噸ハ本邦ニ輸出サル由「ポー・ト・サイド」製塩會社、印度支那製塩會社ト共同事業ヲナシ世界一ノ製塩事業ナリト聞ク)及本邦品ヲ取扱ヒ居ル G. M. Mohamedally & Co. ノ各重役ニ會見シタル

ガ右諸會社ハM・M・郵船會社ト共ニ一行ニ對シ種々ノ好意ヲ示ス所アリタリ「エチオピア」國ニハ信據スヘキ統計類無キヲ以テ結局將來ハ佛領「ソマリ」總督府及右諸會社ノ統計資料等ヲ利用スル必要アルヘシト認メラル

(三)小官等ノ乗船「ヂブチ」ニ到着スルヤ在「ヂブチ」「エチオピア」領事(同地ノ重要性ニ鑑ミ「エ」國ハ常ニ有能ナル外務省員ヲ同地ニ駐派スト聞ク)來船歡迎ノ挨拶ヲナセリ十二月二十三日夜「ヂブチ」出發二十四日夜「アデイス・アベバ」ニ到着スルヤ「タスファエ」外務次官(Ato Tasfae Teguegné, directeur général au Ministère des Affaires Étrangères)一年半程前迄在巴里「エチオピア」公使館參事官タリシ人物ニテ小官巴里ニテ面識アリ親シク出迎「ヘルイ」外務大臣ノ名ニ於テ歡迎ノ挨拶ヲナセリ

(四)二十五日午後早速外務省ニ「ヘルイ」外務大臣ヲ公式訪問シ前述「タスファエ」次官列席ノ下二次ノ如キ挨拶ヲ交ハシタリ

先ヅ小官ヨリ左ノ趣旨ヲ陳ブ

「今回帝國公使館開設ノ任務ヲ帶ヒテ來「エ」シ最初

ニ「アツクレディット」サレシモノト看做スコトニ御同感ナルヘキヤ右ニ御同感ナルニ於テハ明日ヨリ在當地各國使節トモ接觸シ度キ希望ナリ、尤モ日本政府ニ於テハ明年一月一日ヲ以テ正式ニ在當地公使館ヲ開設スル豫定ニテ右正式開設ノ上ハ直チニ公文ヲ以テ御通知致スヘシ(註、一月一日附公文ヲ以テ開館通知ヲナシタリ)

最後ニ予カ今回來「エ」ニ際シ在大阪貴國名譽領事湯川忠三郎氏カ先般來朝セル「ダバビル」氏ト協力シ日「エ」親善増進ニ努力シ居ル次第ヲ傳達方希望シ越セルヲ以テ此ノ機會ニ之ヲ御傳ヘスヘシ

右ニ對シ「ヘルイ」外務大臣ヨリ左ノ趣旨ヲ陳ヘタリ

「日「エ」兩國間ノ親善關係ハ相當舊キモノナルカ予ハ數年前貴國ヲ訪問シ貴國朝野ノ「エ」國ニ對スル友情ノ如何ニ眞摯ナルカヲ親シク看取シタリ上ハ天皇陛下ヨリ下ハ市井ノ庶民ニ至ル迄予等一行ニ對シ多大ノ厚誼ヲ示サレタリ予ハ歸國後各方面ニ對シ此ノ好遇ヲ傳ヘ日本ノ國情ニ付報告スル所アリタリ然シテ各方面ノ人士カ予ノ報告ヲ聽キテ異口同音ニ予ニ尋ネシ所

ノ臨時代理公使トシテ兩國ノ親善關係ノ増進ニ微力ヲ盡スコトハ予ノ最モ欣幸トスル所ニシテ殊ニ先年來朝セラレ日本朝野ノ各方面ニ多クノ知己ヲ有セラルル閣下ニ本日會見シ此ノ挨拶ヲナスヲ喜ブモノナリ

予ハ貴國政府カ予今回ノ來「エ」ニ際シ示サレタル各種ノ好意ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表ス今後新公使館ノ開設及予ノ任務遂行ニ當リテハ特ニ閣下ノ好意的御援助ヲ希望スルモノナリ第一ニ此ノ際成ルヘク速ニ適當ナル家屋ヲ見附ケテ公使館ヲ開設セムコトヲ希望スルモノナルカ此ノ点ニ関シ閣下ヨリ在留邦人ニ對シ候補家屋ニ付御話アリタル趣ナルカ速ニ本問題ヲ解決スル爲適當ナル貴外務省員ヲ御指名アリ之ト交渉スル様御取計ヲ得ハ幸甚ナリ

皇帝陛下ニハ目下「デシエ」ニ行幸中ト拜承スル處御歸都ノ際ハ成ル可ク速ニ謁見ノ榮ニ浴シ度ト存スルモ日本外務省ニハ代理公使ノ制度無ク從テ予ハ廣田外務大臣ヨリ閣下ニ對スル書翰ヲ持參シ居ラサル次第ニテ曩ニ廣田外務大臣ヨリ閣下ニ直接發送シタル予今回ノ任務ニ関スル電報及本日ノ會見ヲ以テ予カ正式ニ貴國

ハ日本ハ果シテ何時「アデイス・アベバ」ニ外交代表者ヲ駐割スヘキヤト言フ点ナリキ從而今般愈々待兼ねタル日本公使館ノ開設ヲ見ルニ至リシコトニ付キテハ予カ何人ニモ増シテ之ヲ慶賀スルモノニシテ貴下ノ任務遂行ニ付凡ユル便宜援助ヲ供與スヘキコト勿論ニシテ公使館家屋ニ付テハ「タスファエ」次官ト協議セラルル様致度シ予ハ昨夜直チニ貴下カ無事ニ着任サレタルコトヲ皇帝陛下ニ電報シタル次第ニテ御歸都ノ上ハ速ニ謁見ノ御沙汰アル様取計フヘシ貴下ノ言ハレシ如ク廣田大臣閣下ヨリ直電ニ接シ居リ當方トシテハ右ニテ勿論充分ノ儀ニテ直チニ在當地外交團ニ接觸サルルコト然ルヘシ

先刻御話ノ湯川領事ヨリハ成ル程日本ノ輿論カ益々「エ」國ニ對シテ同情ヲ表スル旨報告シ來リ居ルモ同領事ハ外交問題ニ付交渉スルノ權限無ク今回貴下ノ來「エ」ノ結果直接外交政治問題ニ付協議シ得ルコトハ予ノ特ニ喜ブ所ナリ

予ハ貴下ヲ當外務省ニ於テハ最良ノ僚友トシテ遇スヘク外務省以外ニ於テハ失禮ヲ恰モ同胞ノ如ク待遇致

スヘシ」

(五) 仍テ十二月二十六日外交團首席タル白耳義公使「ヤンセン」氏ニ面會挨拶ヲナシ次テ他ノ各公使各領事ヲ往訪セリ

現在ノ外交使節左ノ通(尚外交團「リスト」^(省略)別添参照)

白國公使 M. Janssens

英國公使 Sir Sidney Barton

佛國公使 M. Bodard

獨逸公使 M. Kirchholks

米國代理公使 M. C. Van H. Engert

土耳其代理公使 M. N. Ayachi

希臘弁理公使 Docteur Zervos

右ノ外領事左ノ通

埃及領事 M. Awad El-Bahrawy

瑞典領事 Docteur K. Haner

右外交領事團ニ付注意スヘキ点左ノ如シ

(1) 土耳其ハ從來名譽領事ヲ置キシノミナル由ナルカ客年八月公使館ヲ開設セリ又「タスファエ」次官ノ内話ニ依レハ埃及側ニモ領事館ヲ公使館ニ變更ノ議アル趣ナ

治顧問トシテ同ジク米國人 John Spenser アリ(同人

ハ瑞典人 général Virgin ノ後ヲ襲ヒシモノニテ在巴里「エチオピア」公使ニシテ聯盟代表タル M. le Blatex gueta Wolde Mariane ノ推薦ニ係ル由ニテ一月初着任セリ同人ハ國際法學者ニテ外務省ノ顧問トナルモノト認メラル右ノ外司法省顧問トシテ瑞西人 Cuberson アリ目下歸國中ナルカ再歸任セサルヘシト

ノ噂モ傳ヘラル

(5) 伊太利公使館員及領事館員ハ伊「エ」開戦後在留民ト共ニ全部引上ケタルカ目下ノ處伊國乃至伊國人ノ利益保護ヲ引受クル國決定シ居ラス在伊「エチオピア」國乃至「エチオピア」人ノ利益保護ニ付キテモ之ヲ引受クル國決定シ居ラル由ナリ

(六) 前述(四)「ヘルイ」外務大臣ニ對スル挨拶中ニ言及セル湯川「エチオピア」國名譽領事ノ申出ニ付テハ在羅馬中山大使館參事官龔ニ「エチオピア」國出張ノ命令ニ接スルヤ同領事ヨリ客年十月十四日附同參事官宛書翰ヲ以テ「エチオピア」出張ノ上ハ同參事官ヨリ「エチオピア」國皇帝並ニ外務大臣ニ湯川氏カ「ダバビル」氏トモ協

リ(一説ニ依レハ埃及ハ伊太利ニ氣兼ねシ當分公使館ニ變更セサルヘシトノコトナリ)

(2) 白耳義公使ハ大戰前香港ニ領事タリシコトアリ英國公使及佛國公使カ長年支那ニ在勤セシコトハ御承知ノ通ニテ米國代理公使モ數年前北平ニ在勤セシコトアリ各公使館員中ニモ極東又ハ支那在勤ノ經驗ヲ有スルモノ少ナカラス之レ一ニハ當國裁判制度其他ニ付支那ノ制度ト似タルモノアルモ一因ナルヘシト認メラル

(3) 別添外交團「リスト」ニ就キ見ルモ明カナルカ如ク米、英、土ノ各國ハ伊「エ」紛争ト關係シ武官ヲ増派又ハ新ニ駐在セシメ居レリ

(4) 希臘ノ弁理公使タル Dr. Zervos ハ二十余年以来當地ニアリ現皇帝ノ侍醫ニシテ又有力ナル御相談相手ノ由ナリ瑞典領事 Dr. Haner ハ十年前當地ニ「エ」國々立ノ病院ヲ開設シ引續キ同病院長ナリ

尚「エ」國政府ノ正式顧問トシテハ財政顧問トシテ米國人 Colson (大戰前領事官トシテ廣東ニ居リシコトアリ日本ニモ數回来遊セル由ニテ既ニ當地在住五年ニ及ヒ財政以外ノ問題ニ付テモ相談ヲ受ケ居ル趣ナリ) 政

力日「エ」親善増進ノ爲ニ努力シ居ル次第傳達方同參事官ニ希望シ越シタルモノニテ小官「エチオピア」出張ノ命ニ接スルヤ中山參事官ヨリ右書翰ノ傳達ヲ受ケタルニ付前述ノ如ク一言々及シ置キタルモノニテ湯川領事ニ對シテハ簡單ニ右ノ次第小官私信ヲ以テ申送り置キタリ右爲念

79

昭和11年1月14日 在仏國佐藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

対伊石油制裁追加問題および我が方への制裁
適用問題に関する仏國首相談話について

第一九號

(1) 十三日「ラヴァール」首相ト會見其ノ談話要領左ノ通

「伊「エ」紛争ニ付自分ハ最善ノ努力ヲ爲シタル積リナルモ其ノ結果ハ英外相ノ辭職トナリ自分モ僅カノ多數ニテ漸ク今日迄切抜ケ來レリ而シ自分ノ終始一貫執リ來レル政策ハ唯一ノ良策ト確信シ居ルカ故ニ今後モ態度ヲ變更

パリ 1月14日後発
本省 1月15日前着

セサルヘシ但シ二十日以後ノ理事會ニ於テハ自分モ「イーデン」モ積極的態度ニ出ツルコト無ク専ラ他國ノ態度ヲ見極ムルコトトナルヘク石油制裁追加問題ハ米議會ノ態度不明ノ今日聯盟トシテ急速積極手段ヲ講スルコト不可能ナリ現ニ採用セラレタル聯盟ノ制裁手段ノ外地勢、暑熱、雨季、流行病等皆伊國ノ爲ニハ不利益ノ條件ナレハ石油ノ追加無クトモ戰爭繼續上伊國ノ受クル苦痛ハ相當大ナラサルヲ得ス(首相ハ伊カ早晚窮境ニ陥ルヲ豫想シ居ルカ如キ口吻ヲ洩ラセリ)

三、⁽²⁾日支問題最近ノ發展ニ關シ英國外務當局者トノ會談中若ハ壽府ニ於テ日本ニ對スル制裁問題ニ付話題ニ上リシモノ一切無シ(本件ハ英、佛一部ノ論客中伊太利ニノミ制裁ヲ加ヘ日本ノ行動ヲ掣肘セサルハ不公平ナリトノ論擡頭セリト認メラレタルニ依リ本使ヨリ質問セルモノナリ)

三、海軍會議ニ關シテハ自分ハ詳細ヲ承知セサルモ佛國政府カ日本ノ不利益トナルカ如キ態度ハ執ラサルヘキコト丈ケハ承知シ置カレ度シ

尙首相ハ數日中内政問題ニ關スル議會ノ質問ヲ切抜ケ得レ

騷亂ノ結果「エ」國官憲ノ保護無キニ至リシ場合ハ英國公使館内ニ立籠ルコトトス

右兩都市ノ空襲禁止ニ付開戰當初關係國政府ヨリ伊國政府ニ對シテ申出テタルニ對シ兩地カ軍隊又ハ軍需品ノ集中起點トナラサル限り空襲セサルヘキ旨確言セル由十月十八日附伊國政府ノ「コムミュニケ」アリ目下ノ所當地ニ軍隊又ハ軍需品ノ集中ノ事實無キヲ以テ當地爆撃ノ危険無キ筈ナリト一般ニ考ヘ居ルモ二、三日前當地眞北八〇軒ノ「フイツセ」ニ伊軍飛行機現ハレタリトノ情報アリ他方伊軍カ大型水上機「サボイア」十六臺ヲ「マツサウア」ニ運ヒタリトノ報道アリ其ノ使途ニ付種々取沙汰サル或ハ鐵道中斷ヲ試ミルヘキカト爲スモノモアリ

(佛へ轉電セリ脱?)

佛ヨリ英、獨、伊及壽府へ轉報アリタシ

81 昭和11年1月24日

在エチオピア鈴木臨時代理公使より
広田外務大臣宛(電報)

出張中の我が方陸軍大尉に対しエチオピア外
相より武器購入および飛行士派遣方内密申入

ハ二十日ノ理事會ニ自身參列スヘシト云ヘリ
英、伊へ轉電シ獨、白、露、壽府へ暗送セリ

80 昭和11年1月18日

在エチオピア鈴木臨時代理公使より
広田外務大臣宛(電報)

エチオピア駐在外交・領事団会合において決
定された在留民保護要領について

アデイスアベバ 1月18日後発
本 省 1月19日前着

第六號

當地外交、領事團ハ客年十月以來萬一ノ場合ノ在留民保護方ニ付協議シ來リ十七日第三回會合ヲ開キ小官出席セルカ決定要領左ノ通

在留外人多キ當地(約三千百五十名、内本邦人六名)及「デイレ、ダウア」ニハ伊「エ」開戰ト前後シ夫々英國公使館警備員土兵一箇小隊、鐵道警備佛人兵一箇小隊駐派セラレタルニ付之ヲ中心トシテ「エ」國官憲ノ保護ノ下ニ萬全ヲ期スルコトトシ當地ニテハ(一)伊軍空撃ノ場合(二)騷亂ノ場合郊外ノ公使館區域(英、佛、獨、白公使館)ニ集中避難シ(三)

れについて

アデイスアベバ 1月24日後発
本 省 1月25日前着

第七號(極秘)

二十三日「ヘルイ」外相ヨリ服部大尉ニ對シ高射機關銃、小型聽音器、對戰車砲各四臺購入方及飛行士派遣方内密申出アリ同大尉ヨリ巴里陸軍武官事務所ヲ通シ參謀本部へ電報セルニ付委曲右ニテ御了知相成度ク右申出ニ對スル政府ノ態度御回電ヲ仰ク

尙從來得タル情報ニ依レハ支拂問題ニモ(脱?)「エ」國側ハ武器彈藥ノ入手ニ困難ヲ感シ居ルモ瑞西、白耳義、獨逸等ヨリ主ニ銃器ヲ購入シ英國ハ將來ヲ惧レ武器ハ賣ラサルモ彈藥ハ相當供給シ居ルモノノ如ク右武器彈藥ハ大体英領「ソマリ」ヨリ入り居ル模様ナリ(轉電先脱?)

82 昭和11年1月29日

在エチオピア鈴木臨時代理公使より
広田外務大臣宛

エチオピア赤十字關係者より我が方赤十字社
からの援助物資無事到着および各国赤十字の

援助振りにつき説明について

公機密第一七號

(3月2日接受)

昭和十一年一月二十九日

在「エチオピア」國

臨時代理公使 鈴木 九萬(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

各國赤十字ノ「エチオピア」赤十字ニ對スル援助

振ニ関スル件

小官当地出張ノタメ巴里出発前豫テ懇意ニシ居リタル在巴里赤十字社聯盟ノ事務總長「スウィフト」氏及日本赤十字社在巴里代表者山内四郎氏ト連絡シ「エチオピア」赤十字社幹部、赤十字國際委員會在當地代表「ブラウン」氏並目下諸國赤十字社ヨリ當國ニ派遣セラレ居ル救護班等ニ對スル紹介狀ヲ得当地着任ト同時ニ右各方面ト接觸ヲ保チ来リタル處「エチオピア」國赤十字社ハ外務大臣「ヘルイ」氏ヲ會長ニ戴キ Docteur Lambre ナル米國人ニシテ「エチオピア」ニ歸化シタルモノヲ書記長トシ居ルカ、日本赤十字社從來ノ好意援助ニ對シ深キ感謝ノ意ヲ表シ居レリ日本赤十字社ヨリ「エチオピア」赤十字社ニ送付越シタル

社へ申送ラルヘキ儀ト存セラルルモ御参考迄ニ報告ス

83

昭和11年2月28日

在伊国杉村大使より
広田外務大臣宛(電報)

伊国首相より仏國に石油禁輸は既成条約の存

在理由を失わせ英仏の圧迫は日独伊接近の氣

運を高めると注意喚起について

ローマ 2月28日後発

本省 2月29日前着

第二一號

(1) 二月末ノ形勢ニ付内聞スル處次ノ如シ

甲、東阿

一、伊軍ハ「エ」軍ノ氣勢衰ヘ殊ニ彈藥食糧ノ缺乏甚シキニ乗シ雨季前ニ英領「ケニヤ」及「ソマリ」ヨリスル密輸入ノ通路ヲ斷タント期スルモ少クトモ北方ニテハ地勢上大ナル前進ハ困難ナラント察セラル

二、聯盟ノ「エ」援助實現ノ爲英、佛、伊ニ於テ聯盟ノ仲介ニテ「エ」ノ外債ニ應ジ(英資金ヲ提供)「エ」ハ其ノ代償トシテ皇帝ニ直屬セサル地方ニ對スル委任統治

衛生材料百三十八箱ハ一月二十二日無事到着シタル趣ヲ以テ日本赤十字社ノ好意ヲ感謝スルト共ニ右衛生材料ノ包裝美事ナルニ感嘆シタル旨右「ブラウン」氏ヨリ別紙甲號寫ノ通來翰アリタリ、尙小官ヨリ豫テ「ブラウン」氏ニ對シテ各國赤十字社ノ「エチオピア」赤十字社ニ對スル援助振ニ関スル最近迄ノ報告書入手方希望シ置タル處一月二十九日同氏ヨリ別紙乙號寫^(省略)ノ報告書ヲ送付越セリ、右ハ「エチオピア」皇帝ノ御希望ニ從ヒ同皇帝ニ提出ノタメ作成シタル報告書ノ寫ナル由ナリ

右報告書ニハ瑞典赤十字社ノ援助ニ付言及シ居ラサルモ同社ハ卒先「ミツシヨン」ヲ送り、各五十床宛ノ野戰病院ヲ Ghinnir 地方及 Sidamo 地方ニ夫々開設シ他方瑞典飛行家 Comte de Rosen ハ其ノ飛行機携帶來「エ」シ救護事業連絡衛生材料ノ運搬等ニ從事シ居ル由ナリ

尚「ブラウン」氏ハ諸國赤十字社ノ好意ニ依リ漸ク救護及衛生材料モ相当集マリタルカ之カ運搬等ニ多大ノ費用ヲ要スルニモ顧リミ今後ノ援助トシテハ寧ロ現金ノ寄贈ヲ希望スル由内話シ居レリ

右ノ諸点ニ付テハ「エ」國赤十字社等ヨリ直接日本赤十字

權類似ノ權利ヲ英、佛、伊ニ與フル案(伊ニ大部分ヲ與フ)ニテ Pirelli 目下英、佛ニ出張極々内密ニ交渉中ノ由

乙、地中海

英ハ徐々ニ艦隊ヲ引揚ケテ英伊關係ヲ緩和シ伊ヲ含ム關係國間ニ安全保障協定ヲ締結シ之ヲ切掛ニ伊「エ」紛爭ヲモ解決セントスル腹案ヲ有スルモノノ如ク英カ前者ノ締結ニ重キヲ置クハ言フ迄モナシ

丙、中歐

(2) 一、獨伊ノ關係著シク改善セシカ未タ個々ノ少問題^(小)ニ付相互ニ便宜ヲ計ル程度以上ニ出デス

二、「グニユーブ」經濟「ブロック」建設ニ對スル伊羅^(羅)ノ策動ハ獨伊ノ反對及英ノ難色ニテ停頓ス

三、佛蘇規約ニ對シ

(イ)獨ハ法律上ハ兎モ角精神上「ロカルノ」協約ノ基礎ヲ覆スモノト爲シ伊ノ共鳴ヲ得又

(ロ)蘇聯モ佛ノ内部ニ有力ナル反對アルノミナラス英カ近頃蘇聯ニ接近シ且該規約ノ成立ニ好意ヲ表スルハ實ハ中央亞細亞ニ於ケル蘇聯ノ進出ヲ牽制セント

(欄外記入一)

スル爲ナルヲ見抜き規約ニ對シ大ナル期待ヲ有セサルニ至レルカ如シ

丁、制裁

「ムツソリーニ」ハ石油ノ禁輸ハ「ロカルノ」條約羅馬及「ストレーザ」協定佛伊軍事密約ノraison d'êtreヲ失ハシムヘキコト及英佛ノ壓迫ハ自然日獨伊接近ノ氣運ヲ促スヘキコトヲ閃シ英殊ニ佛ノ注意ヲ喚起セル由ナルカ伊カ獨伊ノ提携ヲ誇張スルニハ獨モ迷惑ヲ感シ警戒スル由

(欄外記入二)

(欄外記入一)

東亞問題ニ關係ナキヤ

(欄外記入二)

日本モ迷惑

編注「伊」の箇所「?」に「仏塞智」と書込みあり。

84

昭和11年3月27日

在エチオピア鈴木臨時代理公使より
広田外務大臣宛(電報)

人種問題ニ幾分ナリトモ眼鼻着クハ次ノ世界大變革ノ時ナルヘシ

三、「エ」ハ本戦争ニ際シ我ヨリ多大ノ援助ヲ期待シタル爲失望ヲ洩ラス者鮮カラサルカ我公正ナル立場ハ理解セシムルニ難カラサルヘク將來ハ「エ」ノ獨立發展ニ對シ私心ナキ援助指導ヲ惜マスシテ益々其ノ信頼ヲ得ルト共ニ「エ」人一千萬ノ利益ニ合致スル我經濟上ノ權益ヲ伸張シ進ンテハ當國乃至「ヂブチ」方面ヲ通シテ紅海沿岸ニ對スル我商權ノ發展ヲ期スルコト必要ナリ當國輸入額(「ヂブチ」ヨリノ鹽ヲ除ク)ノ八割餘ヲ占メ總額九百萬圓位ニ上リシコトアル我綿布、綿絲、雜貨等カ專ラ印度「アルメニア」商ノ手ニ依リ居ルコト御承知ノ通ナルカ(目下ハ戦争ノ爲輸入激減シ居レリ)決濟ノ困難モ「バンク、オブ、エチオピア」カ本邦銀行トノ直接取引ヲ引受クル意嚮ニテ問題ナク邦商カ當地ニ於テ直接取引ヲ爲シ最初ハ前記商人ノ利益ヲ尊重シ漸次之ニ取テ代リ又新タル地歩ヲ開拓スルコト可能ニシテ特ニ和協成立前ニ足場ヲ固ムルコト緊要ト存ス此ノ見地ヨリ最近來「エ」セシ神戸三島森太郎商店支配人ニ對シ充分ノ援助ヲ與ヘ居

伊エ紛争終結後のエチオピアにおける我が方
經濟上の權益拡充に向けて各種の工作を実施
について

第二九號

アデイスアベバ 3月27日後発
本 省 3月28日前着

一、伊「エ」戦争ノ結果ニ關シ伊國ハ和協條件如何ニ拘ラス實際上其ノ犠牲(戰費既ニ歐洲大戰々費ノ三倍ニ達セル由佛國公使談)ヲ償フ丈ケノ發展ヲ當國二期シ得ヘキヤ疑問佛國ハ對伊態度ノ爲「エ」側ニ頗ル不人氣米國ハ英國ニ追隨獨逸ハ實力ナク結局「エ」ノ内心好マサル英國カ漁夫ノ利ヲ占ムルニアラスヤト觀察サル阿弗利加、阿刺比亞、印度方面各種族ハ本戦争ヲ被壓迫有色人種ノ白人帝國主義ニ對スル鬭争トシテ注目シ代表者格ノ者ヲ當地ニ派遣シ居レリ此ノ形勢ヲ利用シテ露國(「タス」特派員ト稱シテ四名入込ム)ハ當地ニテ人種問題等ニ働キ懸ケ獨逸亦舊植民地恢復ノ策動ヲ爲ス英國ハ之ヲ機ニ資本戦争ノ有色人種ニ及ホス影響ニ深キ關心ヲ示シ日本カ此ノ間ニ策動セサルヤヲ疑ヒ邦品進出ヲ嫉視スト認メラル

リ同人ハ當地支店開設ニ決ス當國ヘノ商取引發展ノ爲ニハ「ヂブチ」ニ適當ナル「トランジツト、エーヂエン」トヲ置ク要アリ適當ナル佛國人ヲ之ニ充ツルト共ニ名譽領事トスルコト一案ト存ス從來各國「コンセツション」ノ失敗ニモ顧ミ當地ニテ濫リニ「コンセツション」ヲ得ントスルコト考物ナルモ綿布工場經營權ノ獲得ハ研究ノ要アリ之カ爲ニハ棉花栽培權ヲモ得ルコト望聞敷キカ「エ」側モ之ヲ許與スヘシト豫想サル

三、和協ノ結果ハ從來當國ニ利害少キ國ノ顧問カ非組織的ニ雇ハレタルニ反シ聯盟援助ノ名ノ下ニ主要關係國ノ顧問カ組織的ニ介入シ來ルモノト豫想サレ右顧問中ニハ本邦人ヲ入ルルコト望聞敷キカ(佛國公使ハ自發的ニ是非入ルル要アリト述フ)兎ニ角和協條件ノ如何ハ非聯盟國タル我方ト「エ」トノ各種關係及我經濟上ノ利益發達ノ可能性ニ對シ多大ノ影響ヲ及ホシ得ヘキニ付「ヘルイ」外務大臣ニ充分此ノ點留意方希望申入レタル處之ヲ快諾シ自分ハ日本訪問以來皇帝ヨリ日「エ」親善關係ノ確立ヲ特ニ委囑サレ居リ平和克服後モ一、二年ハ現職ニ留マル積リ又假令職ヲ去ルトモ日「エ」關係ノ爲ニハ全力ヲ盡

スヘシト述ヘタリ

從來通り及孟買へ暗送ス

編注 「三倍」は、三月二十八日発在エチオピア鈴木臨時代理

公使より広田外務大臣宛電報第三〇号により「同額」と修正された。

85 昭和11年4月16日 有田外務大臣より
在米國齋藤(博)大使宛(電報)

伊国によるエチオピア保護国化の場合に対する米国の措置につき通報方訓令

本省 4月16日午前11時25分発

第八七號

最近ノ戦況ニ顧ミ伊太利ハ究極ニ於テ「エチオピア」ヲ保護國トスル意圖アルヤニ傳ヘラレ居ル處萬一斯カル場合ニ際シテハ「エ」國ニ於ケル我方通商上ノ權益保護方ニ付何等カノ措置ヲ執ル必要アルヤニモ思考セラルルモ其時期方法等ニツキテハ更ニ考慮ヲ要スル次第ナルニ付貴任國政府ノ態度御注視ノ上同様ノ目的ヲ以テ何等措置ヲトルカ如キ

模様アル場合ニハ速ニ電報セラレ度シ

參考トシテ英、佛、伊、獨へ轉報アリタシ

86 昭和11年4月17日 有田外務大臣より
在エチオピア鈴木臨時代理公使宛(電報)

伊国によりエチオピアが保護国化された場合の我が方対応振りにつき外国通信員へ回答についで

本省 4月17日後7時発

第二一號(極秘)

貴電第三八號ニ關シ

定期新聞會見ノ際外國通信員カ歐洲ヨリノ情報ニ依レハ伊國ハ間モ無ク「エチオピア」ヲ保護國ノ如キ隸屬狀態ニ置カントスル様子ナル處日本ハ如何ナル態度ニ出ツルヤト質問シタルニ對シ(當時通信員中ニハ本社ヨリ右我方態度ノ通信方命令ヲ受ケ居タルモノアル由)係官ニ於テハ日本ハ如何ナル場合ニモ其ノ有スル權益ハ充分ニ保護スル措置ヲ執ルヘク伊國カ「エチオピア」ヲ如何ナル狀態ニ置カントスルモノナルヤハ承知セサルモ日本ハ日本ノ立場ヨリ獨自

行動スヘシ然シ若シ伊太利カ傳ヘラルルカ如キ「エチオピア」隸屬案ヲ有ストセハ世界ハ寧ロ聯盟乃至英佛カ之ニ對シ如何ナル態度ヲ取ルヤヲ興味ヲ以テ注視スルナル可シト答ヘタル趣ナリ
貴電ト共ニ伊ニ轉電シ伊ヲシテ英佛米ニ轉電セシメラレ度シ

87 昭和11年4月22日 在仏國佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

伊國軍アデイスアベバ侵攻の場合の備えにつき在エチオピア臨時代理公使に照会

パリ 4月22日前発
本省 4月22日前着

合第八九號

本使發「エチオピア」宛電報
第五號

伊太利軍貴地侵入切迫ノ模様ノ處
一萬一ノ場合貴館員及在留民避難ノ準備アリヤ
ニ食糧ノ貯アリヤ

ニ「ヂブチ」トノ交通確保セラルヘキヤ同地聯絡員アリヤ
四、最寄公館トノ聯絡アリヤ當館ニテ何等御手傳出來得ヘキヤ

以上本使心得迄御返電請フ

大臣、伊、埃へ轉電セリ

88 昭和11年4月23日 在エチオピア鈴木臨時代理公使より
有田外務大臣宛(電報)

伊國軍アデイスアベバ侵攻に備え避難の準備等手配中である旨在仏大使に回答についで

アデイスアベバ 4月23日前発
本省 4月23日夜着

第四六號

本官發佛宛電報

第一四號

貴電第五號深謝申上ク

一、準備アリ但シ當館ハ比較的安全ノ地域ニ位シ在留民全部
當館ニ集マリ居リ目下ノ所伊軍侵入ノ場合モ避難ノ必要
無カルヘシト認メラル

ニ有リ

ニ確保セラルヘキ見込「ジブチ」聯絡者ハ Compagnie de
(L'Armée 2)
L'Armée Orientale

四在「カイロ」公使館ト聯絡ヲ保チ度キモ伊軍侵入ノ際或
ハ電信不通トナルコトアリ得ヘシ其ノ場合ハ佛國公使館
ノ無電ニ依頼シ佛外務省ヨリ貴官ニ轉報ヲ請フコトトシ
度シ

大臣、埃及ヘ轉電セリ

佛ヨリ伊ヘ轉報アリタシ

89 昭和11年 4月30日

在伊国杉村大使より
有田外務大臣宛(電報)

伊国軍アデイスアベバ侵攻の際における同地

我が方公使館の保護につき伊国外務次官に申

入れについて

ローマ 4月30日後発

本省 5月1日前着

第六九號

伊軍「アデイスアベバ」侵入ノ際我公使館ノ保護ニ付豫メ充

往電第一八號ニ關シ

一其ノ後形勢惡化全ク無政府状態ニ陥リ掠奪、殺戮、火災
相次ク二日夜ハ一同徹宵警戒數同ニ亘リ襲ハレタルモ防
禦ヲ全フシ一同無事

ニ二日朝以來政府ノ無線機關利カス又佛國公使館ニモ危險
ニテ行ケサルニ付往電第一八號ト共ニ三日同公使館ニ依
賴セントス

三最後ノ本省宛往電ハ第五號本省來電ハ第二二號當方ヘ
ノ電報モ佛外務省經由セラレタシ佛國公使ニ依頼濟
四事態斯ノ如キモ小生ノ健康問題モアリ淺田書記官豫定通
リ出張赴任場合ニ依リテハ「ジブチ」ニテ待機セラレン
コトヲ希望ス(三日正午)
大臣ヘ轉電アリタシ

(付記)

本年五月「エチオピア」首都「アデス、アベバ」

ニ於ケル擾亂ト帝國公使館ノ防衛ニ付テ

本年五月二日「エチオピア」皇帝「ハイレ・セラシエ」一
世ガ伊太利軍ノ進撃ヲ前ニ大勢ノ非ナルヲ察シテ首都「ア

分ノ手配アリ度キ旨「スウイチ」ニ申入レタルニ伊軍トシ
テハ萬々一ニモ外交團員ニ危害ヲ及ホスカ如キコトアルヲ
惧レ極メテ慎重ニ行動スヘキ旨答ヘタリ

佛ヘ轉電シ壽府ヘ暗送セリ

佛ヨリ「エチオピア」ヘ轉報アリタシ

90

昭和11年 5月3日

在仏国佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

アデイスアベバは無政府状態に陥リ電報の發
受も困難につき在エチオピア仏國公使館經由
で發受信中について

付記 作成日不明、欧亜局第二課作成

「本年五月「エチオピア」首都「アデス、アベ
バ」ニ於ケル擾亂ト帝國公使館ノ防衛ニ付テ」

パリ 5月3日後発

本省 5月4日前着

第二二四號

「エチオピア」發本使宛電報

第九號(二日前)

デス・アベバ」ヲ退去セラレタル後、同五日ノ夕刻伊軍ガ
入市スル迄ノ四日間「アデス・アベバ」ハ「エチオピア」
暴民ノ掠奪、放火、殺戮等ノ爲恐怖ノ巷ト化シ各國公使館
モ襲撃ヲ受ケタノデアルガ此ノ間ニ處シ鈴木代理公使服部
歩兵大尉以下ノ邦人ガ協力一致公使館ノ防衛ノ爲ニ奮戰シ
タ勇敢ナル行爲ト周到ナル用意ハ外務省員ヲ感激セシメテ
居ル。

五月二日ノ早曉午前三時ニ「エチオピア」皇帝ハ豫テノ準
備ニ依リ皇后皇太子及諸皇族、閣員、宮内官等ヲ隨ヘ特別
列車ニテ出發亡命セラルコトトナツタガ一行ガ皇居ヲ出
發セラルルヤ直ニ宮中ニ於テ掠奪ガ開始セラレタ。皇帝出
發ノ報ガ漸次全市ニ傳ハルト共ニ市内各所ニ掠奪ガ開始セ
ラレ放火、殺戮ヲ伴ツテ最般賑ヲ極メタ市ノ中心區域ハ殆
ド灰塵ニ歸シテ仕舞ツタ。暴民ハ宮中ヨリ銃器彈藥ヲ掠奪
シテ猛威ヲ振ヒ在留外人ハ急遽英、佛、獨等ノ公使館ニ避
難シタ爲殺害セラレタ者ハ極ク少數デアツタト云フ事デア
ルガ五月二日夜ハ暴民ハ更ニ郵便局、主要商店ニ火ヲ放チ
其ノ火焰ハ月明ノ空ヲ燒キ物凄イ光景ヲ呈シタトノ事デア
ル。此ノ擾亂ハ翌三、四日モ繼續セラレ各公使館モ兇暴ナ

ル匪徒ノ襲撃ヲ受ケタガ五日ノ夕刻伊太利軍ノ入城ト共ニ直ニ銃聲ハ止ミ市内ハ平靜ニ歸シタ。

帝國公使館ノ防衛

鈴木代理公使ハ昨年末「エチオピア」ニ帝國公使館ヲ開設スル爲ニ赴任スルニ當リ萬一ノ危険ニ備ヘテ大形拳銃三挺及彈丸ヲ用意シテ行ツタガ着任後小銃ノ買入困難ナ爲同僚ノ英佛兩公使ヨリ小銃各四挺及彈丸ノ貸與ヲ受ケ公使館ノ防備ニ付テハ「エチオピア」ニ出張中デアツタ服部陸軍歩兵大尉ノ指導ノ下ニ本年三月以來必要ナル設備ヲ整ヘ防備ノ手筈ヲ定メテ居タノデアル。擾亂勃發ト共ニ在留民及公使館使用人竝ニ附近ヨリ避難シテ來タ數家族ノ「エチオピア」人ニ屬スル使用人(四挺ノ輕機關銃ヲ持ツテ居タトノ事デアル)ヲ加ヘ晝夜ノ別ナク防禦ニ努メ遂ニ防禦ヲ全フシ得タノデアツタ。

公使館員ハ鈴木代理公使以下藪内、尾戸兩書記生、之ニ服部大尉、山内囑託、神戸三島商店支店長及店員ノ桐原岩淵兩名ヲ加ヘタ邦人七名ガ一致協力シテ文字通り寢食ヲ忘レタ奮闘振リニ付テハ嚮ニ鈴木代理公使ヨリ本省ニ報告ガアツタ。

スル事ヲ得タ。公使館使用人ノ家族以下近隣ノ「エチオピア」人ノ避難ヲ求メ來ツタ者ヲ收容シタ爲公使館ニ避難シタ者ノ總數ハ約百名ニ及ンダノデアツタ。

尙在留邦人ハ何レモ公使館ニ避難シテ防戦シタ事既述ノ通デアルガ服部大尉、山内囑託ノ住宅ハ何レモ掠奪ヲ受ケ、三島商店支店ハ五月二日掠奪ニ遭ツタノミデナク其後放火ニ依リ炎上シテ仕舞ツタ。

尙英國公使館以外ノ各公使館ハ例外ナク襲撃ヲ受ケタガ領事館中デハ希臘瑞典等ハ掠奪ニ遭ツタト云フコトデアル。

91 昭和11年5月5日

在仏国佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

アデイスアベバの争乱は沈静化しつつあり在
留民全員が無事である旨在エチオピア臨時代
理公使報告

第二二九號(至急)

「エチオピア」發本使宛電報

パリ 5月5日後発
本省 5月6日前着

右ニ依レバ五月二日帝國公使館ハ終日彈丸ノ脅威ヲ受ケ夜ニ入ツテハ徹宵警戒^(宵)シテ居タガ遂ニ三回ニ亘リ匪賊ノ襲撃ヲ受ケ幸ヒ之ヲ撃退スルヲ得タ。帝國公使館ト谿ヲ隔テタ佛國公使館ハ佛國ノ親伊の態度ニ依テ「エチオピア」人ノ怨ヲ買ツテ居タ爲ニ最襲撃ヲ受ケ被害モ大キク負傷者七名ヲ出シタ程デアルガ佛國公使館ノ應戦スル流彈ガ地勢上我が公使館ニ飛來スルニハ弱ツタトノ事デアル。

元來在「アデイス・アベバ」外交團ハ英國公使館護衛ノ「パンジャブ」兵百五十名ニ依テ各公使館ヲ防衛スル事ニ打合せテアツタノデアルガ各公使館ガ英兵ノ來援ヲ求メテ漸ク危難ヲ脱シタニ不拘帝國公使館ハ來援ノ道ヲ絶タレ最後迄獨力ヲ以テ奮闘シ防備ノ全キヲ得タノデアル。

此ノ間鈴木代理公使ハ本國ニ擾亂第一報ヲ送ルベク手ヲ盡シ苦心シタガ電信ハ不通トナリ已ムヲ得ス自動車ニ機關銃二門ヲ据ヘテ暴徒ノ中ヲ佛國公使館ニ走ラシメ佛國公使ニ依頼シテ同公使館無電ニ依テ報道ヲ本國ニ傳フル等其ノ苦心ハ想像以上ノモノデアツタ。

五日朝ニ至ツテ公使館ニ向ケ發砲セル匪賊ニ應戦ニ名ヲ射殺シタ處其ノ復讐ノ爲同夜猛烈ナ攻撃ヲ受ケタガ之モ撃退

第二〇號

形勢幾分靜マル防禦ハ服部大尉指揮萬全ヲ期ス在留民一同無事

今後分ト共ニ參謀本部、各留守宅ヘ通知請フ
皇帝、政府二日早曉撤退(四日午後三時)

大臣ヘ轉電アリタシ

92 昭和11年5月5日

在伊國杉村大使より
有田外務大臣宛(電報)

伊國軍アデイスアベバ入城後同國政府に対し
我が方公使館員および在留民の安否通報なら
びに保護につき申入れについて

第七六號

ローマ 5月5日後発
本省 5月6日前着

五日午後伊軍「アデイスアベバ」ニ入城ス
右公表直前改メテ在「ア」帝國公使館館員及居留民ノ安否通報方竝ニ危険ニ對スル有效ナル手配方伊國政府ニ申入レ快諾ヲ取付ケ置キタリ

佛へ轉電セリ

佛ヨリ「エチオピア」へ轉報アリタシ

93 昭和11年5月7日

有田外務大臣より
在伊国杉村大使宛(電報)

エチオピアにおける我が方通商上の權益尊重
および在留邦人保護につき伊国当局へ重ねて
要請方訓令

第三一號

本省 5月7日後6時30分發

貴電第七六號ニ關シ

在「エチオピア」帝國公使館館員並ニ在留民ノ生命財産ハ
伊軍ニ於テ十分保護セラルコトト信スルモ今後ノ伊國ノ出
様次第ニテハ「エ」國ニ於ケル我方ノ權益(主トシテ通商
上ノ利益)ニ甚大ナル影響ナシトセサルヲ以テ此際更ニ我
方ノ權益尊重並ニ在留邦人保護方伊國政府ニ御申入相成度
「エチオピア」ニ轉電シ英佛ニ暗送アリタシ

94

昭和11年5月7日

在伊国杉村大使より
有田外務大臣宛(電報)

エチオピアにおける我が方權益擁護のための
対伊国交渉にあたっては同權益を具体化し列
國の動向も注視すべき旨注意喚起

ローマ 5月7日後發
本省 5月8日夜着

第七九號(極秘)

貴電⁽¹⁾第三一號ニ關シ「エチオピア」ニ於ケル帝國ノ權益擁
護ニ關スル件)

我方ノ權益尊重並ニ在留邦人ノ保護方ニ付テハ貴電中段ノ
御趣旨ト同様ノ憂慮ヲ懷キタルヲ以テ「ムツソリーニ」首
相及「スヴィツチ」次官ニ對シ從來種々ノ機會ニ親シク申
入ヲ爲シ大體先方ノ容諾ヲ取付ケ來レル次第ナルカ今回帝
國政府ノ訓令トシテ正式ニ申入ヲ爲スニ當リテハ

(-)我方權益ノ何タルカニ付鮮クトモ先方ヨリ質問ヲ受ケタ
ルトキ直ニ具體的説明ヲ與ヘ得ルニアラサレハ伊軍ニ於
テ實際上之カ保護ニ當ラントスルモ目的物ノ正確ヲ缺ク
憾アル處假ニ一々之ヲ指示セサル迄モ日「エ」條約ニ基

キ我方ノ獲得シタル權益ヲ指ストカ又ハ主トシテ通商上
ノ利益ヲ意味スルモ政治的性質ヲ有スルモノモ(若シ有
ラハ)含メントスル趣旨ナリトカ然ルヘク説明ヲ與フル
ノ要アリト思考セラルルニ付右ニ對シ詳細御回示相煩度
シ

(-)「ム」カ「エ」國ハ唯一ノ統率者タル皇帝ノ蒙塵ト共ニ
自ラ瓦解シ無主ノ地トナレリトノ見解ニ基キ伊軍首都ニ
入りテ秩序ヲ恢復スルヤ(英佛側ヨリ在留外國人保護ノ
爲速ニ伊軍ノ首都入城ヲ請フ旨申入レタルハ右ニ付伊ニ
好個ノ口實ヲ與フ)

其ノ儘當然舊「エ」國ノ領土及人民ヲ併合スルニ至レル
旨一方的ニ宣言シタル關係上新タナル「エ」ノ「ステー
タス」問題ト共ニ伊ハ「エ」國ト第三國トノ間ニ存在セ
ル條約其ノ他ノ約束ヲ認ムルヤ否ヤ又伊ト第三國トノ間
ニ「エ」ニ付締結セル約定「エ」カ否認セル一九〇六年
ノ英佛伊條約ヲモ含ムヲ認ムルヤ否ヤノ問題生スヘク
「ム」ハ漠然之ヲ認ムルカ如キ口吻ヲ漏ラスモ此ノ點ハ
「エ」ニ權益ヲ有スル各國ト伊トノ間ニ早晚討議セラル
ルコトトナルヘク而シテ右ノ諸點カ明瞭トナラサル限り

95

昭和11年5月8日

在仏国佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

アデイスアベバにおける軍事・民政両總督任
命に関する伊国側口上書への対応振りにつき
在エチオピア臨時代理公使請訓

パリ 5月8日後發
本省 5月9日前着

合第一〇五號(至急)

「アヂスアベバ」發本使宛電報
第二二號(至急)

六日「バドリオ」當市軍政兩總督ニ任命、民政副總督來訪各公使館同文同日附伊國語口上書交付(佛外務省ヨリ佛譯入手大臣電報ヲ請フ話濟)七日外交團會議豫想ト異リ「エ」官憲解消ニ顧ミ權益擁護ノ爲實際上交渉ノ要アルヘシトテ不取敢各自官房長非公式往訪「バ」ニ會ハムト言ヘハ會ヒ口上書返事ニ付テハ請訓ニ決ス獨逸公使ノミ緊急事件交渉ノ必要上既ニ返事「バ」ニモ會フ返事振其ノ他至急御同訓ヲ請フ

96 昭和11年5月9日 在仏国佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

アヂスアベバにおける軍事・民政兩總督の
任命に関する伊國側口上書について

別 電 五月九日發在仏国佐藤大使より有田外務大臣宛
第二三九號
右口上書訳文要約

外ニ於テ取りタル處置ヲ認メサルヘシ
各公使館ニ關スル問題ハ總テ高級委員官房長トノ間ニ交渉セラレサルヘカラス
各外交使節ハ自身及占領地ノ利益ノ爲ニモ秩序規律及正義ヲ確保スル爲高級委員ト協力セラレンコトヲ希望ス

97 昭和11年5月11日 在仏国佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

在アヂスアベバ伊國軍最高司令官を至急往
訪したき旨在エチオピア臨時代理公使より伊
國側へ要請について

パリ 5月11日後發
本省 5月12日前着

合第一一二號(極秘)

「エチオピア」發本使宛電報

第二三號(至急、極秘)

八日官房長往訪「バドリオ」留守「バ」正式往訪至急許可ヲ請フ佛國公使十日正式往訪伊軍全國的占領ヲ急ク保護國又ハ併合ト言ハルルモ「バ」ハ獨逸公使ニ併合ヲ仄ス何人

第二三八號

在「エ」代理公使發本使宛電報第二二號口上書要約別電第二三九號ノ通

(別 電)

第二三九號
パリ 5月9日前發
本省 5月9日前着

「アヂスアベバ」占領後本高級委員ハ伊太利國王ノ名ニ於テ軍事及民政ノ總テノ權力ヲ管掌ス高級委員ハ Garibella 將軍ヲ「アヂスアベバ」軍事總督ニ又 Battaiヲ民政總督ニ任命シタリ

伊太利國ノ軍政法令ハ爾後「アヂスアベバ」ニ適用セラル戦争終熄ノ條件確立スル迄各公使館員ハ本國ノ利益代表並ニ居留民保護ノ爲從來認メラレ居リタル特權ヲ享有スヘシ各公使館員及其ノ從者ノ生命並ニ財産ハ保護セラルヘシ高級委員ハ各官廳カ他ノ地方官憲トノ間ニ又ハ伊太利法令

モ豫測セサル事態急轉皇帝政府不評判伊ノ立場ヲ強メ歐洲多難ト相俟チ佛國、獨逸等「エ」問題ニテ伊ト爭ハサルヘク英國ノ態度モ佛國公使何モ出來得スト言フ結局門戶開放主張領事館存置位カ關ノ山カト爲ス者アリ

98 昭和11年5月12日 有田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛(電報)

エチオピア併合に関する伊國勅令要領在本邦
伊國大使より手交につき本件通告に対する任
國の対応振り確認方訓令

付 記 作成日不明、歐亞局第二課作成
「在京伊太利大使「エチオピア」問題ニ関シ來訪ノ件」

第九九號(極秘扱)

十二日在京伊國大使大臣ヲ來訪次官代テ面會セル處伊國ノ「エチオピア」併合ニ關スル五月九日附勅令要領ヲ提示シ本國政府ノ訓令ニ依リ本件ヲ通告スルモノナル旨口頭ヲ以テ申述ヘタルニ付次官ハ本件ニ對スル帝國政府ノ態度ニ付

テハ追而研究ノ上何分ノ表示ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ述ヘ
同時ニ「エ」國ニ於ケル帝國ノ權益ハ Duty regarded and
protected ト期待シ居ル旨申添ヘ置タリ

尙本件通告ニ對スル貴任國政府ノ態度御確メノ上早目ニ回
電アリ度シ

本大臣訓令トシテ英、米、獨ニ轉電シ參考トシテ伊ニ轉電
アリタシ

(付記)

在京伊太利大使「エチオピア」問題ニ関シ來訪ノ件

在京伊太利大使ヨリ「エチオピア」問題ニ付大臣ニ面會シ
度旨申出アリタル處大臣ハ議會出席中ニテ不在ノ為堀内次
官代ツテ面接セリ、伊太利大使ハ別紙^(省略)ノ如キ伊太利ノ「エ
チオピア」併合ニ関スル五月九日附勅令要點ノ英譯ヲ提示
シ本國政府ノ訓令ニ基キ之ヲ通告スル旨口頭ヲ以テ申入ア
リ、次官ハ本件通告ニ對スル謝意ヲ表シ「本件ニ関スル帝
國政府ノ態度ハ今直ニ言明スル不能研究ノ上何分ノ表示ス
ルコトヲ得ヘシ」ト述ヘ同時ニ「エチオピア」ニ於ケル帝
國ノ權益ハ Duty regarded and protected ト期待シ居ル旨

駐在スルコト必要アリ」ト説明シタル處伊太利大使之ヲ了
解シ尙本件勅令ニ関スル主要國ノ態度ニ付次官ヨリ尋ネタ
ル處同大使ハ「何等情報ニ接シ居ラス不明ナル」旨答ヘタ
リ



99

昭和11年5月12日 在伊國杉村大使より
有田外務大臣宛(電報)

伊國と列強との交渉推移を注視し必要に応じ
列強と氣脈を通じる等伊國側と緩急自在に交
渉すべき旨意見具申

ローマ 5月12日後発
本省 5月13日前着

第八七號(極秘、館長符號扱?)
往電第八六號ニ關シ

「伊ハ東阿ノ併合ヲ少クトモ非制裁國ヲシテ成ルヘク速ニ
認メシメントノ魂膽ヨリ種々苦肉策ヲ廻ラシ始メタルカ
獨ニテハ率先シテ併合ヲ承認シ伊ヲシテ「ライン」占領
ヲ認メシメント主張スル向アルモノノ如ク獨大使ヨリ十
一日新タニ「エ」皇帝トナラレシ伊國王ニ祝意ヲ表スル

附言シ置キタリ、伊太利大使ハ「日本ハ制裁國ニアラサル
ヲ以テ容易ニ態度ヲ決シ得ベシ」ト述べタルニ付次官ハ帝
國ハ帝國トシテノ独自ノ立場ニ於テ態度ヲ決定スヘキ旨ヲ
答ヘタルニ伊大使ハ「エチオピア」ハ決シテ統一セラレタ
ル單一ナル近代の國家ニアラサル旨述ヘ居タリ尙伊太利大
使ハ新聞ニ依レハ「羅馬ニ於テ杉村大使ハ伊國政府ニ對シ
日本ノ權益保護方ニ付何分ノ申入ヲ為シタル由ノトコロ右
ハ事實ナリヤ」ト問ヒタルニ付次官ハ「杉村大使ハ伊太利
軍憲ニ依ル在「エチオピア」在留本邦人ノ保護方申入タル
モ權益ニ付テ申入云々ニ付テハ記憶セス」ト答ヘタリ

タルニ付

次官ハ「現任帝國代理公使モ特ニ信任狀奉呈ヲ為シ居ル次
第二非ス唯職務執行ニ付「エチオピア」國政府ニ申入ヲ為
シ居ルニ止マル處今次ノ代理公使モ同様ニシテ唯現任代理
公使ハ著數健康ヲ害シ居ル為交送ノ必要アリ且同地ニハ帝
國臣民ノ在留シ居ル次第ニ付之レカ保護ノ為帝國代表者ノ

爲王宮ニ出頭シ帳簿ニ記名スルノ意無キヤヲ問合セ來リ
タレハ帝國政府ニ於テ法律上ハ勿論事實上モ未タ併合ヲ
承認セサルニ顧ミ差控ヘ度シト答ヘ置ケルカ英大使ハ獨
ハ英ノ感觸ヲ害スルヲ惧レ承認ノ時期及方法ニ付苦慮シ
居ルカ如シト語ル

次ニ伊ノ有力者中伊ノ滿洲國承認ト交換のニ東阿併合ヲ
承認スル意無キヤニ付夫レト無ク本使ニ探ヲ入ルル者ア
リ右ニ對シテハ獨立ト併合同一ナラストカ滿洲國ノ獨
立承認ハ伊滿間ニハ交換的ナルヘキモ日伊間ニハ必スシ
モ然ラサルニアラスヤトカ輕ク應酬シ「コムミツト」ス
ルヲ避ケ居レリ

ニ⁽²⁾五月ノ理事會カ伊「エ」紛争ノ討議ヲ延期スヘシトノ報
アルヤ伊當局ハ承認問題カ有耶無耶ニ葬リ去ラルルヲ惧
レ稍焦リ氣味ニテ英佛ニ對シ上記獨[?]ノ地位ヲ認ムル旨聲
明スルノミナラス「ム」ハ佛大使ニ對シ新タニ編成セラ
ルル東阿土人軍ノ數ヲ嚴ニ治安維持ニ必要ナル限度ニ止
ムヘキヲ誓ヒ英佛ノ不安ヲ去リ承認取付ノ端緒ヲ得ント
シ右ニ對シ英大使ハ英ノ權益保護ニ付テモ現地ニテ交渉
スルモノト伊政府ニ要求スルモノトヲ分チ後者ニ付テハ

事實上ノ承認ト誤解セラルル惧モアレハ慎重ノ態度ヲ執ルト告ケ且英佛側ハ非聯盟國中承認スルモノ簇出スルヲ惧レ監視ヲ怠ラサル旨ヲ洩ラス

三伊「エ」紛争ハ人種問題ト絡ンテ我國民的反感ヲ激成シタルニモ顧ミ帝國政府ニ於テモ容易ニ併合ノ承認ヲ御決定相成ルコト難キ事情アリト察セラルルモ我商權ヲ擁護伸張セシカ爲ニハ何時モ感情論ニノミ捉ハルルヲ不利ト爲ス場合ナキニアラス又本件ニ付テハ我獨自ノ見地ヨリ措置セラルル御方針ナルヤニ拜察セラルル處我方ノ目的達成ノ爲ニハ伊ト列強トノ交渉ノ推移ヲ注視シ必要アラハ内面ニ於テ適宜列強ト氣脈ヲ通シ以テ伊トノ交渉ニ緩急宜敷キヲ得シムルヲ望マシトスル場合ナキニアラスト察セラレ右ハ素ヨリ前記御方針ノ御趣旨ニ背馳セサルモノト思考セラルルモ爲念

在歐各大使(土ヲ除ク)、壽府へ暗送セリ

100 昭和11年5月15日 在独国武者小路大使より
有田外務大臣宛(電報)

満州国承認に先立つ伊国のエチオピア併合承

ニ先立ち伊ノ「エ」國合併ヲ承認セハ右ハ日本ノ不愉快ヲ感スル所ナルヘク鮮クトモ滿洲國ノ事實上又ハ正式承認ヲ先ニシタル後本件ノ決定ヲ見ルコト順序ナリト思考スル旨述ヘタルニ次官ハ寔ニ御尤ニシテ充分考慮ノ要アル旨答ヘタリ

英、米、佛、伊へ轉電セリ

101 昭和11年5月19日 在中国若杉(要)臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

伊国側よりエチオピア併合記念儀式への参列
を要請された際の我が方政府対応振り回報方
要請

上海 5月19日後発
本省 5月19日夜着

第三三六號

先般「アジスアベバ」陥落ノ際伊國軍艦ヨリ滿艦飾ヲ施スヘキ旨ノ通知アリ(日、英、米軍艦ハ之ニ應セス佛ハ之ニ應シタル由)又近日「エチオピア」併合記念ノ儀式ヲ行ヒ非制裁國同僚ヲ招待シ度キ趣ヲ以テ伊國大使館ヨリ本官ノ

認は不愉快に思う旨独国外務次官へ説明につ
いて

ベルリン 5月15日後発
本省 5月16日前着

第一〇七號(極秘扱)

佛宛電第九九號ニ關シ

十五日外務次官二面會尋ネタル處偶々十二日伊大使ノ持参セル伊文布告ヲ机上ニ考慮中ノ所ニテ大要左ノ通り説明セリ

一、伊大使ノ布告寫ノ交付ハ單ニ寫ノ交付ナリシヤ又ハ通告ノ形式ナリシヤサヘ不明ニ付更ニ質問ノ上通告ナラハ何トカ回答ノ要アルヘシ
二、回答ノ際ニモ獨逸ハ伊「エ」紛争ニ付中立ノ態度ヲ持シ又聯盟對伊國即チ制裁ノ關係ニ於テモ中立ノ態度ヲ執レル爲暫ク形勢ヲ見ルコト必要ニシテ急速回答發送ノ運ニ至ラサルヘシ

三、「エ」國ハハ幸ヒ代理公使ヲ派遣シ居ルニ過キサレハ公使撤退問題モ暫ク有耶無耶ニシ置クヘシ

右説明後本使一己ノ思付ナリトテ何レノ國カカ滿洲國承認

参列ヲ得ヘキヤ否ヤニ付内意ヲ伺ヒ來レリ本官ハ出席スル立場ニアラサル旨回答ノ答ナルカ今後モ類似ノ場合アルヘク又各方面ヨリ我方ノ對伊態度ニ關スル質問等モアリ旁伊國側ヨリ「エ」國併合ニ付正式通知ノ有無竝ニ帝國政府ノ本件ニ對スル態度等心得置度キニ付此ノ邊ノ事情本官ノ含迄ニ御回電ヲ請フ

北平、南京、天津、漢口、廣東、香港へ轉電セリ

102 昭和11年5月20日 在エチオピア鈴木臨時代理公使より
有田外務大臣宛

在エチオピア外交団による伊國占領軍憲への
対応振りおよび在アディスアベバ伊國軍最高
司令官への非公式訪問について

公機密第七七號 (7月6日接受)

昭和十一年五月二十日

在「エチオピア」國

臨時代理公使 鈴木 九萬(印)

外務大臣 有田 八郎殿

當地伊太利占領軍憲ト外交團トノ關係ニ關スル件

五月十日附拙信公機密第七一號及五月十七日附拙信公普通第七五號二関シ當地外交團ハ伊太利軍當地進入ノ翌日タル五月七日會合シ東亞弗利加ニ於ケル伊太利殖民地高級委員最高司令官「バドリオ」元帥ト外交團トノ關係等ニ付論議スル處アリタルカ右論議ノ結果及外交團側ノ措置振等何等御參考迄ニ左ノ通報告申進ス

一、伊太利軍當地進入ノ翌日タル五月六日中ニ同日當地民政副總督ニ任命サレタル *le Capitaine Alessandrini* カ五月七日附拙信公普通第六九號報告ノ同日附同文伊太利語口上書ヲ各公使館ニ持參シ各公使館カ暗號電報ヲ往復スルコトヲ得ヘキ旨附言セルコト明カトナレリ(英國公使ニ對シテハ「エチオピア」官憲トノ通信ノミハ之ヲ禁スト陳ヘシ由ナリ)而シテ外交團々長タル白耳義公使ニ對シテハ「バドリオ」元帥ハ高級委員トシテ大使ノ資格ヲ有シ伊太利國王ヲ代表スルモノナルヲ以テ元帥ノ方ヨリ先ツ同公使ヲ訪問スルコト無カルヘキ旨ヲ夫レトナク陳ヘ又無制裁國ノ公使ヲ先ニ訪問セル旨ヲ陳ヘシ由ナリ(無制裁國公使ヲ先ニ訪問セリ之ニ付テハ日、米、獨ノ三國公使館ハ比較的早く訪問セシコト事実ナルモノニハ

リオ」元帥ニモ會ヒシ由ニテ實際上既ニ拔軋ケの措置ニ出テ居ルニ顧ミ結局各公使ハ何等カノ口実ノ下ニ(口実ナクトモ)元帥ノ官房長(元帥ノ息タル「マリオ・バドリオ」氏ニ豫メ面會ヲ求メスニ訪問シ(普通ノ背廣ニテ)若シ其ノ際元帥ニ會ハヌカト言ヘハ會フコトトシ(獨逸代理公使モ前記ノ用件ニテ官房長ヲ訪問セシニ其ノ際會ハヌカトノ話出テ其ノ場ニテ元帥ニ會ヒシ由)口上書ニ對スル回答ニ付テハ各自本國政府ニ請訓シ成ルヘク同時趣旨ニテ答フルコト又「バドリオ」元帥正式訪問ニ付テハ本國政府ノ訓令ヲ俟ツコトニ決セリ

二、右ノ結果小官ハ別ニ訪問ノ口実ナカリシモ五月八日朝官房長ヲ往訪セルカ(五月十日附拙信公機密第七一號參照)右ハ獨逸代理公使ニ次キ第三番目位ノ訪問ナリシト認メラル右ニ對シ官房長ハ前記「アレツサンドリニ」大尉ト共二十日午後小官ヲ答訪セリ

「バドリオ」元帥ニ對スル正式訪問ニ付テハ早速請訓セルモ御回訓後レタルト他方佛國公使ノ如キハ逸早く回訓ニ接シ十日朝同元帥ヲ正式訪問シ十一日ニ至リ外交團長タル白耳義公使及土耳其古公使モ訪問ヲ申込ミ英米兩國公

白耳義公使ヲ最初ニ訪問セサリシコトノ弁解ナルヘシト思ハル伊軍進入當日タル五月五日午後四時半頃ニハ既ニ伊太利士官佛國公使館ニ來リ同公使館ノ保管シ居リシ舊伊太利公使館ノ鍵ヲ受取り又五日夜ニハ伊太利軍新聞班長獨逸代理公使ヲ來訪セル事實アリ

同代理公使自身ノ内話ニ依レハ其ノ際同班長ハ先ツ皇太子ハ未タ「アデイス・アベバ」ニ在リヤト尋ネ否ト答フルヤ然ラハ「ラス・カツサ」ハト尋ネ兩人トモ皇帝蒙塵ニ同行セル旨ヲ陳ヘシニ落膽ノ色ヲ見セシ由ニテ同代理公使ハ右ニ依レハ伊太利側ハ右ノ内一人ヲ擁立シテ「エ」國王トシ被保護國ヲ作ラムト少クトモ同夜ハ考ヘ居リシモノヤト陳ヘタリ

外交團トシテハ從來豫測セサル事態カ發生シ「エチオピア」政權カ全然解消シタル爲各國權益ノ擁護ノ爲ニハ實際上占領軍憲ト交渉セサルヘカラサル地位ニ立チタルト他方獨逸代理公使ハ其ノ保護下ニアル瑞西人ニシテ「アデイス・アベバ」郊外ノ農場ニテ匪賊ノ爲包圍サレ危險ニ瀕シ居ルモノヲ救助ノ爲占領軍々權ニ訴フル必要上既ニ前記口上書ニ對シ請ケ書ヲ出シタルノミナラス「バド

リ」使モ申込マントスル形勢ナリシヲ知リシニ付同日申込ミタリ右ノ結果十二日午後二白、英、土各國公使カ正式訪問小官ハ十三日午後米國弁理公使カ十四日午後ニ訪問セリ

三、小官ノ正式訪問ニ関スル御訓令ハ十三日朝接到セルカ右ニ依リ大体佛國公使ノ措置振ニ倣ヒ所謂外交的ノ公式訪問ニ非サルコトヲ明カニシ服裝ハ大禮服ヲ避ケ「モーニング」「シルクハット」トシ藪内書記生尾戸書記生及服部歩兵大尉ヲ帶同(同大尉ノミハ軍服通常禮裝午後五時元帥ノ宿舍タル舊伊太利公使館ニ赴キ官房長ニ案内サレ「サロン」ニ通ルヤ早速元帥顯ハレ頗ル機嫌ヨク應待ス小官ヨリ一同ヲ紹介スルヤ小官等ヲ座ニ招シ其ノ場ニテ會談行ハレタリ

小官ヨリ本日ノ訪問カ公使館及在留民ノ保護等ニ對シ謝意ヲ表シ又今後在「エチオピア」日本權益ノ保護ニ付同元帥ノ高配ヲ得ムカ爲ナルコトヲ陳ヘ又五月六日附口上書ヲ受領シ右ハ早速本國政府ニ傳達セル旨ヲ陳ヘタルニ元帥ハ日伊兩國各種ノ共通點ヲ論シ日本ニ對スル嘆賞ノ辞ヲ陳ヘ世界中「ダイナミック」ニテ膨脹力ヲ有スルハ

日、伊、独ノ三國ノミ伊太利ニ取りテハ世界中ニ残サレシ地域トシテハ此ノ「エチオピア」アルノミ然モ滿洲ニ比ヘレハ小サク貧弱ナリ「エチオピア」人ハ七十万位ノ銃器ヲ有シ居リ之ヲ取上ケ治安ヲ維持スルハ仲々ノ難業ナリ等ト陳ヘタリ

會談約二十分ニシテ辞去シタリ

四、五月十二日朝ハ元師閱兵ノ下ニ當地ニ於テ觀兵式ノ舉行アリ十日午後官房長及「アレツサンドリーニ」大尉來訪ノ際兎ニ角招待狀數通ヲ送付スヘキ旨話アリ其ノ後右招待狀（無記名ノモノ）ヲ接受セルカ「エチオピア」國ニ派遣サレタル外交代表者トシテ此ノ伊太利軍ノ戰捷觀兵式ニ公ニ出席スルコトハ機微ナルモノアリト認メ小官ハ出席セス單ニ服部大尉及山内大毎通信員ヲシテ背廣ニテ列席セシメタリ英、米、白ノ三國ハ何人ヲモ列席セシメス佛國公使ハ「モーニング」「シルクハット」ニテ館員一同及夫人ト共ニ公式ニ列席獨逸代理公使ハ館員ト共ニ背廣ニテ列席土耳其古代理公使ハ武官ト共ニ背廣ニテ列席セル由ナリ

五、其ノ後獨逸代理公使ハ拔駟的ニ五月十三日「ボツタイ」

日乃至五日ノ擾乱以來防備ヲ強化シ居リ目下ノ處情勢必スシモ安定セサルモ護衛兵ノ必要ナカルヘシト認メラル白、獨公使館ニ相當數ノ兵ヲ配備セシハニハ兩公使館カ舊伊太利公使館即チ元帥ノ宿舍（相當ノ高地ニ在リ）ニ登ル道路ノ兩側ニ位シ防禦上ヨリ重要ナルカ爲ナルヘシトモ察セラル

編注 本文書内に「元帥」が「元師」と書かれている箇所が散見されるが、原文のままとした。

103

昭和11年5月21日

有田外務大臣より
在中国若杉臨時代理大使宛（電報）

伊国によるエチオピア併合問題に対しては我が方權益擁護を優先し英仏等の対応も注視しつつ方針を決定する意向につき通報

本省 5月21日前11時30分発

第一二三號

貴電第三三六號ニ關シ

伊軍總司令官「バドリオ」元帥ハ「アヂスアベバ」ヲ占領

民政總督ヲ往訪シタル由ニテ翌十四日英、佛、米、希、瑞典ノ各領事打連レテ同總督ヲ往訪セル由承知シタルニ付領事ナキ當館トシテハ小官自身五月十八日同總督ヲ非公式ニ訪問シ置キ又佛國公使等軍政總督ヲモ非公式往訪セル由ナルニ付小官モ今日中ニ同總督ヲモ非公式往訪シ置ク所存ナリ

六、各公使館ノ護衛ニ付テハ白耳義公使館ニハ白耳義公使ノ要求ニ應シ約六十人ノ海軍陸戰隊員ヲ配置シ獨逸公使館ニハ殆ト自發的ニ約三十名ノ兵ヲ配置シ居レリ佛國公使館ニ對シテハ當地進入ノ當日約八十人ノ兵輕戰車二台機関銃數台ヲ入レテ防備セルカ其ノ後佛國政府ノ希望ニ依ル由ニテ「ディレ・ダツ」ノ佛兵五十名ヲ呼ビ寄せ之ヲ公使館内部ニ配置シ實際上所謂 *garded honneur* トシ公使館入口及外廓ノ實際ノ防禦ハ伊兵五十名ヲ以テ之ニ當ラシメ居レリ英、土、米、日ノ公使館ニハ護衛兵ナシ當公使館ニ對シテ前記「アレツサンドリーニ」大尉ヨリ護衛兵ノ提供アリシモ右ハ極ク輕キ言ヒ方ナリシト「バドリオ」元帥往訪前ニテ厄介ニ成ルハ機微ノ關係アリト思ヒ輕ク *décliner* シ置キタリ實際上當公使館ハ五月二

後在「エ」國外交團ニ對シ六日付口上書ヲ以テ同元帥カ伊國王ノ名ニ於テ軍事及民政上ノ總テノ權力ヲ管掌スル旨並ニ各公使館及在留外國人ノ保護方ニ付通告シ來レリ、在「エ」國鈴木代理公使ハ之ニ對シ本大臣ノ訓令ニ基キ「バ」元帥ヲ訪問口頭ヲ以テ右口上書ヲ受領シ之ヲ本國政府ニ轉達セル旨並ニ右訪問ハ外交的ノモノニ非ス單ニ公使館及在留民保護ニ付謝意ヲ表シ帝國ノ「エ」國ニ於ケル權益保全ノ爲協議スルヲ目的トセル旨ヲ述ヘタリ

越ヘテ十二日在京伊國大使ハ堀内次官ヲ來訪伊國ノ「エ」國併合ニ關スル九日付緊急勅令要領ヲ提示シ口頭ヲ以テ併合ヲ通告シタルカ次官ハ帝國ノ態度ハ追テ之ヲ明ニスヘキ旨ヲ述ヘタリ

伊國ハ種々ノ方法ヲ以テ非制裁國タル日、獨其他ノ諸國ニ働キカケ居ルハ事實ナルモ帝國政府ハ我方ノ「エ」國ニ有スル通商上ノ利益擁護ノ必要アリ他方本問題機微ナル事情ニアル關係上英佛等ノ態度モ見届ケタル上我方針ヲ決定シタキ考ナリ

冒頭貴電ノ通轉電アリ度シ

104

昭和11年5月28日 在英國藤井(啓之助)臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

伊国によるエチオピア併合問題および在内地
公使館存続問題に対する英國側対応につき英
国外務省エチオピア部長より聴取について

ロンドン 5月28日後発
本省 5月29日前着

第三〇六號(極秘扱)

(佛宛)貴電第九九號ニ關シ

二十八日「アビシニア」部長「ピターソン」ヲ往訪シ「ア
ビシニア」併合ニ關スル勅令寫ハ帝國ニ於テモ在京伊國大
使ヨリ受領セル處本邦モ「アヂスアベバ」ニ公使館ヲ設置
シ政治的交渉ヲ有スル次第モアリ右勅令ノ英國側取扱振承
知シ度キ旨尋ネタル處「ピ」ハ國ニ依リテハ(例ヘハ佛國)
「カヴァリング、ノート」ヲ添ヘ右勅令ノ送付ヲ受ケタル
如キモ英政府ハ單ニ勅令ノミ在英伊大使ヨリ呈示セラレ何
等「コムメント」ナシニ受領セル次第ニテ右併合問題ヲ如
何ニ取扱フヘキヤハ萬事聯盟ノ決定ニ依ル旨竝ニ公使館問
題ニ關シテハ過日議會ニテ外相答辯(往電第三〇二號)ノ通

ル(伊モ此ノ所迄來テハ後ヘ退ケサルヘシ「エ」開發援助
等ノ關係モアリ一九〇六年英、佛、伊條約ハ或程度迄尊重
スヘキモ他關係國權益ノ基礎一九〇八年佛「エ」條約ハ無
視スヘシト見ラル現ニ治外法權ヲ無視在留外國人ニ伊國法
權ヲ強ヒントス往電第三三號關稅ハ軍人カ大急キニテ作り
シモノ永續セサルヘシ日本權益ハ此ノ際拔駈的ニ伊ト手ヲ
握ル程重要ニハアラサルヘキカ少クトモ門戶開放論ニテ伊
ト交渉關係國ト協調緊要カト存ス貴電第一五號迄接受セル
ノミ
大臣、其ノ他ヘ轉電ヲ請フ

編注「佛發ノモノ」と書込あり。

106

昭和11年6月4日 在仏國佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

伊國軍の侵攻にともなう我が方損害は關係諸
國中極めて少ない方との在エチオピア臨時代
理公使調査結果について

リ近日在「エ」英公使休暇ニテ離「エ」ノコトトナリ居ル
モ公使館撤退ノ如キハ目下考ヘ居ラスト答ヘタリ尙近ク
「エチオピア」皇帝「インコグニトー」ニテ御來英ノ答ナ
ルモ御出發ニ際シ國務拋棄ノ聲明ヲ爲サレタル關係上御在
英中ノ待遇振ニ關シ相當惱ミ居ル如ク見受ケラレタリ
佛、獨、米、伊ニ暗送セリ

105

昭和11年6月2日 在仏國佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

我が方權益擁護のため關係諸國と協調しつつ
門戶開放論により伊国と交渉すべき旨在エチ
オピア臨時代理公使意見具申

パリ 6月2日後発
本省 6月3日前着

合第二二八號(極秘)

「エチオピア」發本使宛電報
第三五號

「エ」問題ノ將來ハ結局英ノ肚次第英、佛等カ頑張ル丈ケ
我方之ニ均霑スル譯ナルヘキカ(尤モ我權益ノ性質ハ異ナ

合第一三四號

「エチオピア」發本使宛電報
第三六號

大臣ヘ

擾亂直後損害調査三島支店山内ノ二件約一萬圓ニテ各國中
頗ル少キ方詳細郵報セリ侵略カ直接原因又併合セル以上伊
國カ賠償スヘキモノトノ意見多ク佛國公使ハ伊國トノ交渉
ニ當リ賠償問題提起方稟申ノ筈他國態度不明追報關係國ノ
大部カ制裁國故門戶開放貫徹困難カトノ悲觀說モアリ有力
伊國人十年間二百萬人ノ伊國人ヲ入レ三十年間ニ當國ニ
重工業迄モ起ス計畫ト語ル
伊ヘ轉電其ノ他ヘ暗送ヲ請フ

107

昭和11年6月8日 在仏國佐藤大使より
有田外務大臣宛(電報)

伊國軍憲による外交使節を無視した対応およ
び治外法權無視の司法制度公布への対処につ

パリ 6月8日後発
本省 6月9日前着

合第一三三號

「エチオピア」發本使宛電報

第三九號

六日外交團會議伊國軍憲カ外交使節ヲ無視スルヤノ措置及治外法權無視ノ司法制度公布ニ付二通ノ同文電報ヲ以テ本國政府請訓ニ決ス恐縮乍ラ佛國公使電報ニ基キ内容本省ヘ電報請フ(詰濟)但シ本官宛伊側通牒少キモ未タ肩書ヲ拔カセシモノ無ク此ノ點獨逸、土耳其モ同シ御訓令在佛大使館、佛國外務省經由御同電ヲ請フ他電報モ目下ノ處同様ニ願フ

108

昭和11年6月9日 在伊國杉村大使より
有田外務大臣宛(電報)

伊国によるエチオピア併合承認問題に関する
連盟總會討議につき在伊アルゼンチン大使と
意見交換について

ス制裁ヲ主唱セル英政府サヘ打切ヲ提議セントスル情勢ナレハ右ハ各國自由ノ決定ニ任セ

B、南米諸國カ最重要視スル「スチムソン、ドクトリン」ヲ確認シ且一般化スル趣旨ノ決議ヲ爲スト同時ニ右ニ關スル規約ノ原則ヲ強化スル決定ヲ爲シ聯盟ノ保障ニ付主義上右諸國ニ満足ヲ與ヘ

C、南米諸國ノミナラス聯盟國ノ大多數ハ主義上ノ建前トシテ此ノ際法律上ハ勿論事實上モ「エ」ノ併合ヲ承認シ得サル立場ニアレハ伊ヲシテ經濟上(例ヘハ門戸開放)及軍事上(黑人軍隊ヲ編成セサルコト)將來ヲ保障スル確約ヲ與フル書面ヲ提出セシメ之ヲ研究スル爲和協委員會ヲ任命シ三箇月又ハ一箇年ノ後二何等カノ妥協ニ達セントス云々

ニ右ニ對シ本使ヨリBノ決議トCノ妥協トノ調和困難ナルヘキヲ指摘シ且「スチムソン、ドクトリン」ハ南米又ハ歐洲ニテハ或ハ價值アルヘキモノナルモ亞細亞ノ如キニテハ決シテ然ラス現ニ日支事件ノ如キモ滿洲國建國ノ由來及其ノ後ニ於ケル發達ノ經過ニ徴スレハ之カ爲却テ眞ノ解決ヲ困難ナラシメタルコト明カナリト言ヘルニ

郵第七號(極秘)

往電第一〇五號ニ關シ

「アルゼンチン」大使ハ伊國側及在伊英國大使ヲ介シ英國側トノ折衝一段落着キタレハ十九日出發巴里、倫敦ヲ經テ壽府ニ赴クヘシト前置シ次ノ如ク内話ス

「總會招集ニ關スル」「ア」ノ提議ニ對シ「ムツソリーニ」ハ當初大イニ反對シタルモ「ア」大使ヨリ伊國王カ「エ」國皇帝トナラレタル爲大公使ノ信任狀提出ヲ始メ條約ノ締結等モ各國カ「エ」ノ併合ヲ認メサル限り不可能トナリ獨リ併合問題ノミナラス大國タル伊ニ取り將來ノ國交上大ナル困難ヲ生スヘシト注意スルト共ニ多年伊ト友好關係ニアル「ア」カ右提議ヲ爲スニ至レルハニ聯盟國トシテノ立場ヲ明カニセントスル南米各國一致ノ希望ニ出テタル次第ニテ若シ満足ナル決定ヲ得サレハ聯盟ヲ脫退スルモノ續出スヘキ形勢ナリト告ケタルニ「ム」モ大イニ和ラキ其ノ後内交渉ノ結果

A、制裁ヲ繼續スルト否トハ總會ノ權限外ナルノミナラ

「ア」大使ハ一應了解シタルモノノ如ク「ア」カ今回直接承認問題ニ觸ルルヲ避ケ前記ノ如キ實際的辦法ヲ講セントスルハ其ノ眞意純理ト實際トヲ調和セント希望スルニ存シ右ハ滿洲國獨立承認問題ノ將來ニモ必ス好キ影響ヲ與フヘシト辯明シタレハ其ノ然ラサル所以ヲ反駁シ且我國ニテハ「スチムソン、ドクトリン」カ極メテ不評判ナル點ヲ強調シ反省ヲ促シ置ケリ
轉電先在歐各大使、壽府、米

109

昭和11年6月11日 在エチオピア鈴木臨時代理公使より
有田外務大臣宛

エチオピアにおける我が方權益をめぐる対伊
交渉の参考として同權益の詳細につき報告

公機密第一〇九號

(7月22日接受)

昭和十一年六月十一日

在「エチオピア」國

臨時代理公使 鈴木 九萬(印)

外務大臣 有田 八郎殿

「エチオピア」ノ「ステータス」等ニ関シ伊國側ト

ノ交渉ニ際シ問題ト成リ得ヘキ我權益ニ関スル件

「エチオピア」將來ノ「ステータス」等ニ関シ伊國政府ト交渉ノ際ニ問題ト成リ得ヘキ「エチオピア」ニ於ケル我權益御參考迄ニ左ノ通報告申進ス

(一)「エ」修好通商條約ノ利益

本邦ハ一九三〇年十一月十五日ノ日「エ」修好通商條約第二條ノ最惠國條款ニ依リ一九〇八年一月十日ノ佛「エ」修好通商條約所謂「クロビュコウスキー」條約ノ利益ニ均霑スル次第ナルカ(當地ニ公使館領事館ヲ有スル他ノ諸國モ同様ナリ)既ニ伊太利側ハ右佛「エ」修好通商條約ヲ無視シテ左ノ措置ヲ執リ居レリ

(1)佛「エ」修好通商條約第二條ニ反シ同條約ノ利益ニ均霑スル諸國ノ在「エ」臣民中ノアルモノヲ何等當該國ノ公使館等ニ豫報スルコトナク退去處分ニ處シ居レリ右處分ヲ受ケシモノハ主ニ「エチオピア」政權時代ニ當地ニ滞在セシ新聞記者ニシテ我方トシテハ大毎通信員山内正夫カ「エチオピア」ニ多大ノ好意ヲ有シ其ノ電報及通信モ頗ル親「エ」反伊的ナリシニ付退去處分ヲ受ケルコトナキヤヲ虞レタルカ今迄ノ處其ノコトナシ五月二十七日

及邦人等)ハ伊太利人同様伊太利裁判權ニ服スヘキ旨ノ總々督令ヲ發セリ(六月五日附拙信公機密第九九號及六月六日附拙信公機密第一〇一號參照)尚三月十九日附拙信公機密第四一號及六月二日附拙信公機密第九四號ヲモ參照)右ニ對シ當地外交團カ六月六日ノ會合ニ於テ各本國政府ニ對シ請訓スルコトニ決シタルコト既報ノ通ナリ(六月六日附拙信公機密第一〇一號參照)

尚右述伊國側ノ採リ来リシ措置ハ占領軍司令官「バドリオ」元帥ヨリ外交團側ニ送付越セル五月六日附口上書ノ趣旨ニモ反スルモノアル次第ナリ(五月七日附拙信公普通第六九號參照)

(二)「エチオピア」ニ對スル邦品輸入

英佛カ一九〇六年ノ三國條約等ニ基キ「エチオピア」國內ニ於テ一種ノ勢力範圍ヲ有シ英カ「タナ」湖ノ治外問題ニ関スル權原佛カ「ダブチ」「アデイス・アベバ」間鐵道等ノ利益ヲ有シ独、白等カ或程度ノ「コンセツション」ヲ得米、瑞典等カ宗教團體等ノ「ミツション」ヲ有シ希臘人印度人及「アルメニア」人(佛國公使館ノ保護下ニ在リ)カ商業ニ從事シ居リ右諸國ノ在留民カ孰レモ相當數當國內ニ定

「ダブチ」ニ赴キ一週間程滞在シテ歸リタルカ伊國側ハ出發前往復ノ査證ヲ與ヘタリ

(2)佛「エ」修好通商條約第三條ニ関シテハ既ニ「エチオピア」政府カ之ニ違反シテ一九三四年二月十日附ノtarif d'estimation pour le commerce d'importationヲ設定シ居リシ次第ナルカ(六月六日附拙信公普通第九八號等參照)伊國側ハ當地占領後幾何モナク五月十九日頃伊太利關稅ヲ設定セルカ右ハ寧ロ「エチオピア」關稅ヨリモ制度簡單ニシテ又低率ナリ(五月二十九日附拙信公機密第八七號及六月十日附拙信公機密第一〇四號參照)乍併右ハ占領軍軍憲カ取急キ作成セシ關稅ニテ長續キセサルモノナルヘシト思考サル

(3)佛「エ」修好通商條約第七條ニ依リ同條約利益均霑國ハ「エチオピア」ニ於テ治外法權ヲ有シ自國民相互又ハ自國民ト「エチオピア」人以外ノ外國人トノ間ノ訴訟事件ニ付領事裁判權ヲ有シ自國民ト「エチオピア」人トノ訴訟事件ニ付テハ所謂特別裁判所提起シテ孰レニセヨ純然タル「エチオピア」裁判權ニハ服セサリシモノナルカ最近伊太利側ハ右ノ特權ヲ無視シテ在留外國人(歐米人

住シ居ルニ反シ日本ハ在留民ノ定住スルモノ極メテ少キモ(目下公使館員三名山内大毎通信員神戸三島商店支店長桐原新及同店員岩淵吉一ノ六名ナリ服部步兵大尉ハ五月二十七日當地出發歸佛セリ)邦品(綿絲、綿布、雜貨等)ハ數年來印度商「アルメニア」商ノ手ニ依リ多量ニ輸入サレ統計類不完全ナルモ一九三三年ニハ九百万円以上ニ上リシモノト認メラル(土田書記官報告參照)但シ客年度ニ於テハ戰爭ノ爲一般商品ノ輸入減少シ邦品輸入額六百万円程度ニ減シタリ(四月二十三日附拙信公普通第七六號參照)「エ」側ノ対日好感ト邦品カ「エ」人ノ需要乃至嗜好ニ合シ居ルトニ鑑ミ伊「エ」戰爭ノ結果「エ」側ノ独立性ニ影響少キモノナリシニ於テハ邦品輸入ノ將來ハ多大ノ發展ヲ庶幾シ得ヘカリシ處ナリキ

(三)公使館土地家屋

伊太利軍當地占領後ノ態度ヲ見ルニ皇室所有家屋「エ」政府公共物ハ勿論各當路者ノ邸宅等モ凡テ押收使用シ居ル次第ナリ當國ニテハ國有財産ト皇室財産トノ區別モ明確ナラサルモノアリ結局帝國政府カ皇后ヨリ借受ケタル公使館敷地及家屋カ伊太利ノ有二歸スヘキ疑ナカルヘシ在當地各公

使館及領事館中英、佛、独各公使館及埃及領事館カ敷地及建物ヲ所有シ居ルコト既報ノ通ニシテ(一月十一日附拙信公機密第一〇號)當公使館ト同様ノ地位ニ在ルハ米國公使館及土耳其古公使館ナリ米國公使館ハ「エチオピア」ノ一慈善團體ヨリ土耳其古公使館ハ皇族ノ一人ヨリ其ノ敷地及建物ヲ借受ケ居ル次第ナリ當公使館ノ敷地及建物ハ二月二十九日附契約ニ依リ期間三年借料月額六百「タレール」ヲ以テ家具ナシニテ借受ケ之レニ對シ今迄ノ處我方ニ於テ約六萬二千法ヲ以テ内部諸設備家具備附等ヲ爲シタル次第ナリ皇后ハ五月二日拂曉皇帝ト共ニ蒙塵セラレ皇后財産管理人ニシテ契約ノ相手方タルモノモ次テ起レル五月二日ヨリ五日迄ノ擾乱ト同時ニ何レニカ立退キ五月以降借料ヲ支拂フニ術ナキ次第ナリ當公使館カ公使館トシテ其ノ儘残ルコトハ困難ニテ結局領事館又ハ總領事館トシテ残ルヘキカト想像サル、モ伊太利人多数入込ミタル今日他ニ適當ノ候補地又ハ候補家屋ヲ見出スコト全然不可能ニシテ飽迄現在ノ敷地ニ残ル外ナシト思考セラル、カ茲ニ注意ヲ要スヘキコトハ貸主側ニ於テ四月三十日迄ニ必ス終了スヘキコトヲ約束セル諸設備(電氣、水道、風呂、召使、家屋等)ハ何等完了シ

居ラス從而我方トシテ契約面通充分ノ享有ヲ得サル次第ニテ伊太利側ト交渉ニ際シテハ右事情ヲ説明シ借料ノ減額ヲ交渉スルコト一案ナルヘシ(「エ」側ニ對シテハ契約署名前一應諸設備完了迄借料ヲ四分ノ一減ノ四百五十「タレール」トスルコトヲモ主張セルモノ一ヶ月以内ニ完了ヲ確約シタルニ付右主張ヲ撤回セル事情アリ)或ハ本件借入契約ハ出来ル丈ケ長期トスルコト望マシキニ付期限ノ延長ヲ條件ニ右諸設備ハ我方ニ於テ引受クルモノ一案カト存ス(本件借入ニ関スル交渉ノ詳細ハ一月十一日附拙信公機密第一〇號及三月五日附拙信公機密第三五號參照)

(四)五月二日乃至五日擾乱ニ際シテノ在留邦人被害

神戸三島商店支店ハ掠奪及放火ニ會ヒ其ノ被害邦貨七千円山内大毎通信員ハ其ノ住宅掠奪ニ會ヒ其ノ被害「エチオピア」貨三千七百七十「タレール」此ノ邦貨約四千五百二十四円(一「タレール」ヲ一円二十錢ト勘定ス)合計一万一千五百二十四円ナリ(往電ニハ約一万円ト報告セシモ其ノ後詳細調査ノ結果右ノ通ナリ尚被害調査ニ付テハ五月十日附拙信公機密第七二號及六月五日附拙信公機密第一〇〇號參照)

各國在留民ノ被害額ニ付テハ未タ確定セサルモノアルモ佛國ノ分ハ數百万法ニ上リ独逸ハ約五十万馬克ニ達スト言ハレ我在留民ノ損害額ハ最モ少キ方ナリト認メラル佛英其ノ他大体ニ於テ伊太利側ト當國ノ「ステータス」等ニ付論議ノ際本件損害ヲ伊太利ヲシテ賠償セシメントスルモノ、如ク(本件擾乱カ伊太利侵略ノ結果ニシテ又伊太利ハ併合ニ依リ各種ノ利益ヲ壟斷スル結果賠償ハ當然ナルヘシトノ意見少カラス)主義上ノ話合附キシ上ハ混合委員會ニテモ作リ損害額ノ検討及賠償ノ實際方法ノ論議ニ入ルモノト見ラル

(五)三島商店支店

從來邦品ハ専ラ在當國印度商及「アルメニア」商ノ手ニ依リ當國ニ輸入セラレ從ラニ右商人等ニ依リ利益ヲ壟斷セラレ又夫レ丈ケ「エチオピア」人モ不當ニ高キ邦品ヲ買ヒ居リシ次第ニ漸次右ノ事態ヲ匡正邦人ニ依リ直接ノ輸入ヲ必要ト認メ殊ニ伊「エ」戰爭終結前ニ何トカ邦人商人ノ足場ヲ固メ置ク必要アリト認メ居リタル矢先右支店支配人桐原新力戰乱ノ巷ニテ顧ミス來「エ」セシニ付之レニ對シ充分ノ援助ヲ與ヘ同人モ支店開設ニ決シ四月一日ヲ以テ開

店綿糸、綿布、雜貨ノ貿易兼卸小売業ヲ營ミ始メタル處「エ」人間ニ大ナル人氣ヲ呼ビ又「アルメニア」商印度商中提携ヲ希望スルモノモ少カラス前途頗ル有望ト認メラレシニ前記擾乱ニ遭ヒタルハ小官トシテモ頗ル氣ノ毒ニ絶エサル處ナリ乍併同人ハ不屈不撓飽迄初志ノ貫徹ヲ期シ擾乱終了後直ニ再開店六月末位ヨリ續々注文邦品到着ノ筈ナリ伊「エ」戰爭終結前ニ足場ヲ固メタル唯一ノ邦人商店トシテ是非トモ其ノ利益ヲ充分ニ保護シ度モノト考ヘ居レリ本信寫送付先 在伊大使(但在佛大使館ニ送付幸便ヲ俟チテ在伊大使ニ轉達スルコト、致度)

110

昭和11年6月17日 在エチオピア淺田(俊介)公使館二等書記官より
有田外務大臣宛電報

エチオピアへの赴任途上伊国側より新たな外交官の入国は認められないとして入国拒絶について

第六三號

ジブチ 6月17日後発
本省 6月18日前着

本官本月十四日當地著出迎ノ藪内書記生十五日著「エ」國入國ノ爲在當地伊國總領事ノ査證ヲ要スルコトナリタル旨鈴木代理公使ヨリ傳言アリタルニ付不取敢同書記生ヲ伊國總領事館ニ派シ交渉セシメタルモ埒明カサリシニ付更ニ本官總領事ヲ往訪鈴木書記官病氣離任ノ事情ヲ述へ便宜ノ措置ヲ得度キ旨懇談セルモ同總領事ハ「エ」國力消滅シ伊領トナリタル事實ハ既ニ各國政府ニ通告済ニシテ領事官トシテナラハ兎ニ角新タニ外交官トシテノ入國ハ絶對ニ之ヲ認メ難ク本國政府ノ訓令ニ依リ他國外交官ニモ同様ノ取扱ヲ爲シ居リ遺憾乍ラ如何トモ致シ難キ旨陳辯シ應諾セス尙種々實際解決ノ趣旨ニテ折衝セルモ同總領事ノ應酬振ニ徴シ到底當地ニテハ解決困難ナルヤニ認メラレタリ

鈴木代理公使ハ病氣ノ爲此ノ上「アジス」滯留困難ナル由ニテ兩三日中ニ離任來「ヂ」ノ豫定ナル趣ニ付更ニ同官ト協議ノ上今後ノ措置方稟申スヘキモ差當リ本官トシテハ當分當地滞在ノ外無ク右御承認相成度ク尙電報事務其ノ他ノ爲藪内書記生當地滯留方併セテ御詮議ヲ得度シ當地「アジス」間聯絡不便ノ爲便宜本官ヨリ稟請ス

伊、「エチオピア」へ轉電セリ

宛ノ書面ニ就キ伊「エ」紛争ノ由來ヲ冷靜且公平ニ攻究セハ何人モ伊ノ行動力決シテ不法ニアラサルヲ認識スヘキ筈ナリト論ス

ニ外相ハ伊ハ決シテ自ラ進テ承認問題ヲ提起スルカ如キコトナカルヘク英、佛ヲ始メ東阿ニ權益ヲ有スル各國カ早晚事實上ノ承認ヲ爲スノ餘儀ナキニ立チ至ルヘキヲ信シ靜ニ成行ヲ監視スト語ル

三伊カ「エ」ニ對シB式委任統治條項諸條件ノ適用ヲ承諾シタルハ斯シテ英ノ希望ヲ容レ他日聯盟ヲシテ曲リナリニモ併合ヲ承認セシムルカ又ハ少クトモ默認セシムル素地ヲ作ラントノ魂膽ニ出テ右ハ主トシテGrandiノ進言ニ基クモノラシク外相ハ伊ノ門戸開放及土人軍不偏^編教育禁遏及通商ニ對スル機會均等確保カアル爲ナリト説明シ且右ハ伊ノ一方的宣言トシテ自發的ニ爲サルモノナレハ委任統治條項ノ受諾トハ趣ヲ異ニスト辯ス

尙通商問題ニ對スル非聯盟國ノ立場ニ付redaction次第ニテハ我ニ不利トナル惧アレハ注意シタルニ外相ハ即答シ得サル模様ナリシ故藪蛇トナルヲ惧レ強ヒテ追求セサ

本官電報宛先左ノ如シ

Hotel Continental Djibouti

111 昭和11年6月24日

在伊國杉村大使より
有田外務大臣宛(電報)

連盟におけるエチオピア問題討議および我が
方対エチオピア貿易の将来等に関し伊國側と
意見交換について

ローマ 6月24日発
本省 7月23日着

郵第一一號(極秘)

往電第一〇八號ニ關シ

一伊ハ總會カ滿洲國ニ對スルト同シク「エ」帝國新statusノ不承認ヲ決議スヘキヲ惧レ本使ニ對シ外務次官ハSimson Doctrineヲ非文明國ニ對スル國際關係ニ適用スルノ不合理ナルヲ説キ外相ハ南阿聯邦ノ如キカ伊將來ノ進出ヲ惧レテ今尙制裁ノ續行ヲ力説シツツアルト、壽府ニ於ケル特別ノ空氣ト、總會ノ群衆心理トニ依リ不承認ニ關スル宣言カ成立スルニ至ルヘキヲ懸念シ總會議長

リキ

先般英大使ハ英トシテハ「エ」帝國カ立派ナル獨立國ナリシニ顧ミ伊ヲシテA式委任統治ヲ受諾セシメント欲スル旨ヲ内話シタルカ伊前記ノ宣言ハ英伊互讓ノ結果ナリト察セラル

四、外務次官ハ制裁ノ經驗ニ依リ伊カ從來經營可能ノ産業迄モ數多等閑ニ附シ居リタル事實ヲ發見シタルハ此ノ際國民經濟ノ自給自足ヲ目標トシテ國內産業ノ全部ヲ建直スノ要ヲ認ムルト同時ニ東阿ノ富源開發ニ依リ不取敢制裁國ニ對シテハ昨年十一月十八日ノ制裁開始ト共ニ通商條約ハ總テ破棄セラレタリトノ見解ヲ取り新ニ求償主義ニ依リ各國トノ通商協定ヲ試ムヘキ旨ヲ告ク(本使ハ右ハ制裁國側ヨリ殺到スル巨億ノ債權取立ヲ防クニハ妙案ナリト戲レタルニ次官ハ笑ツテ肯ク)

本使ヨリ嘗テ「ムツソリニ」及「スヴツチ」カ與ヘタル言質並ニ我カ對「エ」國輸出額カ綿布ノミニテモ千萬圓ニ達セントシ又我カ「エリトリア」ヨリ巨額ノ鹽ヲ輸入スルヲ告ケ我對「エ」貿易ノ將來ニ對シ好意的態度ヲ執ランコトヲ求メタルニ外相ハ伊トシテハ東阿遠征ニ大ナ

ル犠牲ヲ拂ヒタルニモ顧ミ「エ」ノ富源開發ニ依リ速ニ人口及原料問題ヲ解決シ行詰マレル國民經濟ノ局面ヲ打開セント期スル次第ニテ此ノ際何事モ伊國本位ノ見地ヨリ決シ度キ方針ナレハ世間ニ傳ヘラルル如ク制裁國ニ對シ特ニ報復的措置ヲ執ラントスルカ如キ餘裕モナキ次第ナルカ伊國ハ由來通商上ノ鎖國ヲ許ササル國柄ナレハ生絲、人絹、紡績等伊ノ重要産業ノ敵タル日本ニ對シテモ決シテ不當ナル制限ヲ設クル意思ナキニ付將來實際問題ノ起ル毎ニ腹藏ナキ意見ヲ交換シテ日伊共同ノ利益ヲ圖ラント答ヘタレハ自由主義ノ拋棄ハ日伊ニ取リ自殺ト異ラサレハ大局的見地ヨリ外相ニ善處ヲ望ムト述ヘ置ケリ在歐各大使（土ヲ除ク）、壽府ヘ暗送セリ

112

昭和11年6月27日 有田外務大臣より
在伊國杉村大使宛（電報）

在エチオピア公使館館務は差当たり同館書記
生をして担当させる旨通報

本省 6月27日後1時50分發

第四八號（急）

國ノ「エ」國併合ニ至ル迄ノ經緯ハ實質的ニハ兎モ角外形上滿洲事變ト類似ノ點ヲ有スル事實並ニ日伊兩國カ其ノ國情ニ稍々軌ヲ一ニシ居ルモノアル事ヲ考慮セサルヘカラス依而帝國カ聯盟國ノ態度ヲ見極ムルコトナク早急ニ「エ」國ノ伊領編入ニ付正式ニ承認スルカ如キハ英國等ニ對スル關係上面白カラサルコト勿論ナルモ其事實的關係ハ或程度ニ認ムルノ外ナク又聯盟ノ動向モ亦同様ナルヘシト豫想シ

貴電第一〇七號ニ關シ

御來示ノ如ク淺田書記官ニ貴大使館兼勤ヲ命シタル上貴地ヨリ更メテ出張セシムルコトハ形式上好シカラサルトキニ目下ノ處特ニ出張ノ必要ナキモノト思考セラルルニ付差當リ在「エ」公使館ハ藪内ヲシテ館務ヲ處理セシムルコトトシ淺田ハ「エ」國在勤ノ儘貴地ニ赴キ暫ク待機セシムルコトトセリ

「エ」「ヂブチ」淺田ヘ轉電シ英佛獨壽府ヘ暗送アリ度

113

昭和11年6月27日 有田外務大臣より
在伊國杉村大使宛（電報）

伊國によるエチオピア併合承認問題に対して
は連盟諸國の動向を注視しつつ同諸國より一
歩先んじて承認することが望ましい旨通報

本省 6月27日後1時40分發

第四九號（極秘）

「エチオピア」ノ「ステータス」確定迄テニハ伊國ト聯盟諸國トノ間ニ相當ノ迂餘曲折アルヘキ處非聯盟國タル帝國ノ本件ニ對スル態度ハ聯盟ノ決定ニ追隨スルノ要ナク又伊

得ヘシ

就テハ我方トシテハ聯盟國ノ動向ヲ注視スルト共ニ聯盟ノ決定ニ一歩宛先ツカ如キ態度ヲ以テ之ニ處置スルコト適當ナリトノ意嚮ナルニ付今后本件取扱方ニ付テハ右ノ點御含置アリタシ

英佛獨壽府ヘ轉電アリタシ